

昭和三十四年度

宮城県伊具郡における方言語いの分布と
生活言語上の地域的変動の状況について

宮城県角田女子高等学校郵便友の会

目次

一、当研究の動機

二、経過

三、調査分野と区域の設定

四、調査項目の設定

五、現地調査の基準と実際

六、地方語調査書

七、加藤正信先生よりの指導助言

八、地方語の分布状況（伊具郡方言地図）とその解釈

九、結語

一〇、評語（加藤正信氏）

一、方言調査研究の動機

この方言調査を雨田女子高校郵便友の会が掌っているところに疑問を抱かざるを得ない。当友の会の在り方は文通をもつて、行うことに主眼があることは誰しも否定しえないところであるが、そこには學びの道にあるものとして、何ものかを學びうる手段として、当友の会を利用することこそ学校生活活動にその意味が伺えるものではなからうか。

かゝる点より何か計画的系統的にして學習の面に効果的ながらも現実の社会に根ざした上に興味をそゝるものを郵便文通という手段でその目的を果せるものはないだらうかと考えた結果、当方言調査にその意義を見出したのがこの動機だといえよう。

本校卒業生特に県外就職者の経験談によつても話し言葉にその労力を少なからず費しているとの事実がらあして、又、郷土の言葉を客觀的に系統的に知つておくことこそこの面で役立つことであらうし、当調査の意義は否定しえないところであらう。

当調査研究に当り東北大学大学院文学研究科加藤正信氏の御懇切な御指導御助力を受け、同研究科兼本校講師宮川康雄先生の御援助に対しても友の会員と共に深甚なる敬意と感謝を申し上げさせていたゞき

二、経過

昭和三十四年五月初旬

全 右 雨田女子高校郵便友の会活動開始
伊賀郡内の方言調査の実施を決定

全 右 五月中旬
東北大学大学院文学研究科加藤正信氏より調査対象、その範囲及調査の方法等の指導をうける

全 右 六月一日

全校生徒に対し「言葉の調査」と題して、入学当初、他地域の特にめずらしいと

全 右 六月十日

右で得られた言葉の中伊賀郡内での地域差の著しい言葉を選ぶために部分抽出法により各通学地区より二名乃至三名ずつを選びその言葉を選定する。(調査対象となる言数百二十一送る)

全 右 六月三十日

当友の会の研究方針を加藤先生へ郵便で連絡したところ「言語生活」を中心とす

研究の指針を受けた。

昭和三十四年七月一日

全石 七月四日

全石 七月七日

全石 七月八日

各地区毎の一覽表作成
加藤先生に御来館を迎ぎ本校被服室で当調査の意義方法それに対する心構えから調査の実際の練習に至るまで友の会員指導をうける（出席者数三十四名）
調査対象となる語を五十八にしほりそれらの説明文を添削補充等地方語調査書作成のための指導をうく

全石 七月十日

全石 七月十五日

全石 七月二十日

全石 七月末より八月始めにかけての夏休み中生徒個人が各自希望する地域の郷土調査を行う

全石 九月十士月調査書の結果により分布地図の作成に当る

全石 五月十五日

全石 五月十五日

友の会員代表八名、顧問一名と共に分布地図の修正及びその解釈検討に関する指導をうけるために東北大学文学部国文学研究室を訪ね加藤先生の指導をうける。

昭和三十五年二月五日

全石 二月十五日

全石 二月十五日

全石 二月十五日

加藤正信先生より解釈、検討するための分布地図作成のための指導をそれによる解釈の方法に関する指導をうく、資料項目を二十二と決定
右の資料の解釈、検討を終る
印刷、製本を終る

三、調査分野とその区域の設定

地方語の研究はその目的に従つてこれを方言の研究と俚言の研究との二つに分ける。
方言の研究とは一地方言語社会の言語体系の記述と説明とをその目的とする。例へばその方言を音韻、語法、語彙に亘つてその組織、構造を記述しこの方言の成立を立証し進んで国語内に占むべきその位置を論定するが如きは方言の研究である（東條操方言概説による）と述べられてあるように方言研究

には音韻語法、語彙の三分野から総合的にすゝめてゆくべきであるが調査上の各分野の難易、仙南地方はアクセント・イントネーションの区別・変化がないという既定の資料から高校生として果し得る語彙関係部門に研究対象を限ることとした。

又分野を語彙関係部門に限るとしても無制限な地域を調査対象と定めるわけにもゆかず調査者が本校生徒である限り最も身近に接せられる地域つまり伊具郡内の地域に限定することとした。かくすることによつて、研究する興味と意欲をそゝると共に自己の生活を言語の上から再認識することになろう。

四、調査項目の設定

以上の分野区域を調査するに当り無数の語を無計画に実施するわけにもゆかず結論を見出すための調査言語の既定の資料もないので、調査項目設定のための予備調査を行うことにした。

特に広い地域の言語上の差を見出すならいざしらず、伊具郡という狭い地域にその地理的差異の漸しい語が存在しうるものか、又それによつて言語的境界線或は等語線なるものが引かれるものか。当調査の最も懸念された問題であつた。

(イ) 予備調査

当調査の理想的な方法としては現地調査に準じ実地検分して決定すべきは当然だが本校生徒の通学地区毎に選定し（別紙の如く）例之ば入学当初地域の或は出身中学校毎に最も抵抗を感じながら話し合つた語を全生徒にアンケートをとり、これらを調査にふさわしい語に統整するため各通学地区毎二名ずつ部分抽出方法に従がい、特に狭い地域に於ける言語上の差異のある語百二十一語にしぼることができた。

尚、それらを實際的実用的な立場から加藤正信先生より検討してもらうに五十八語にしぼり、本年度本調査の項目とした。

【言葉の調査】 年 組 通学地区 出身中学校 46

I. あなたはどこで育てられましたか。

① 現在のところで ② 他 の 場所へ ③ より移り現在の所で

才 年生

II. 他 の 場所より移転した人は何才で何年生の時ですか。

III. あなたは高校一年に入学した当初自分達が話していた言葉に対して他の中学校より入学した友達が

話している言葉が違っていたり或いは珍らしい言葉だと感じた言葉はありませんか。もしありましたら出来るだけ多く思い出し記入して下さい。

又その人がどこの中学校出身かわかっていたらばその言葉の隣に（ ）としてその中学校名を記入して下さい。

Ⅱ あなたの部落で話されている言葉で他の部落と着じるしく違っていたり或いはあなたの部落だけで話されている言葉はありますか。ありましたら全部記入して下さい

Ⅲ 次の条件にあてはまる人があなたの部落にありましたら、その人の姓名と住所を記入して下さい

① 男性である ② 六十才以上又は四十才以下の大人 ③ 生れてから満十五才まではその土地（他の市町村及びその字）で生活したことのない人 ④ それ以後ずっと生活したとしてもその期間が三ヶ年までの人（勿論兵隊生活もよその生活にはいります。）

姓名

住所

六十才以上の人

四十才以下の人

（ロ）地方語調査書の作成

この調査書は右に述べたように調査項目は五十八から成り立っているが、抽象名詞等のような高麗な概念をもつもの、複雑多岐にわたる内容の言葉はできるだけ高校生として調査整理のしやすい普通名詞とか単純な動作をあらわす動詞、及び形容しやすい簡単な形容詞等を主に採用した。

なほ、調査項目の排列も意味の関連のあるものを一つづけて調査できるように心がけた。そうすることにより調査の際に被調査者に抵抗を感ずることなく答えてもらえるからである。

五、現地調査の基準と実際

実際問題として狭い地域のうち言語的差異の漸しい語を引出さなければ当調査の主旨にふさわしい語に必要にして充分な調査上の説明がなされたとしてもそれは机上の空論に終ること必至なことである。

それがために言語の地理的分布を實際に調査するがためには次の表が当主旨に合うべく的確な手続を必要とするものである。

（一）調査地 表（二）被調査者（三）調査すべき言語の規定とその傾向方法（四）調査状況（五）記録方法（六）言語の地理的分布図の作成（七）その解釈、検討などなるべく一定にして地理的

境の差異と記録された言語現象との相関係を考察するところに本旨がある。

（一）調査地 表は理想からみると言語の地方的差異の漸しいところからその地表を設定すべきであらうが、

本校の実態又学校へ小又は中学校を示す。毎に地方的差異が認められるという資料もみられる。觀矣。より郡内の中学校特に各部落毎に区分し実施した。しかし、一部落でも地域的に差異がみられると思われ、上掲の場合は更にその地奥を増した。

(二) 被調査は女性に限り生れてから今日までの土地特にその部落だけを生活根據地として生活してきたものか或は他の部落へ転住したことがあるとしてもその期間が三年以内でしかも満二十才まで他の部落地域で生活したことのないものを必須の条件として、他の市町村より結婚等で転住してきたものは一切取り扱わないこととした。又旧高等女学校、新制高等学校以上の教育をうけたものも同様に調査対象ともしなかつた。

このような條件に更に六十才以上・三十才より五十才・二十才以下の三階層にわけ被調査者を区分けして実施した。

「伊興郡内の方言研究のための調査者調書」

次の條件に合う人が賣女の地区にありましたら当調査の主旨をその方々に連絡、了承を得てこの調書に記入捺印してもらつて下さい。

市町村名 字名

1. 六十才以上の女性

氏名印

年令

住所

2. 三十才より五十才の女性

氏名印

年令

住所

3. 二十才以下の女性

氏名印

年令

住所

條件

1. この調査書の字名のところで生をうけ育てられ今日にきている女性であること。

2. 又他の部落へ行き生活したことがあるとしてもその期間が三年以内でしかも二十才まで他の字又は他の部落で生活したことのないもの

3. 他の市町村より転住へ例へば結婚などをしてきた女性は、この調査対象にはなりません。

4. 又旧高等女学校以上の教育をうけた女性もこの調査対象になりません。

(三) 調査すべき言語の規定とその奥向方法

調査項目の設定の項で述べたように五十八項目の言葉に対し、被調査者に対し同一事物（或は概念）を連想させるために言語によつて表わされるべき意味内容を或る一定のかなり狭いものに規定し、その意味の切り取り方を定めるだけ似たものにするために「地方言調査書」の如く一定の文章、身振り、絵などによつて説明し、それを表わす言語形式を求めた。しかし被調査者個人共年令、環境や体格を異にしている以上その意味内容の受け取り方も各様であることはやぶやえなものであるがそれにも増して、当調査の実地に關して全くの素人として各人が各地実を分担的に調査するよりむしろ調査する生徒の個人差のあつたこともゆがめない事実である。

これら個人差を防ぐ意味においても調査者としての高校生に無理にならないう程度に言語が規定され、奥向方法の簡單化されなければならぬ。こゝに於て「意味内容の規定を長い説明文によつて嚴密にすることよりもむしろ幾つかの例文を用意してそのような文中において使用されるか否かという用ゑを調査した方が實際的眞つ科学的である」という御指導を痛感せざるを得ない。

四 調査状況

現地調査は昭和三十四年七月、八月の夏期休暇を利用して行つた。調査者の分担は結果的には調査者自身の通学出身地区或はその周辺となつたが、飽くまでも希望する地奥にゆくことを原則として希望地のなかつた地奥には八月五日に特定の生徒と各グループに分れ調査した。勿論調査者は被調査者と面持の上調査を行つたが調査態度は各人名地共同様条軒になるように心がけたが全くの未経験と地域によつては不慣れな現地出張、又人間対人間の關係である以上その状況は全くの同一であつたといふ難かつた。

調査地奥と調査者氏名

東根（平島）	北村多美子	佐藤ひろし	藤尾（藤田・金津）舟山哲子・角條淑子
北郷（君萱）	菅野ミヅ子	舟山 敬子	櫻（佐倉）上巻と同一
西根（高倉）	南條 淑子		
角田（南町）	小野寺洋子	曲水 勝子	
館岡（新町）	小野 昭子	大寺由利子	表廻 淑子

大張（大藏川前）	天野トシ子、半沢聰子	小野寺洋子、佐藤 晶子、鈴木 幸三、
耕野（大和沢）	大張（大藏川前）と同じ	
丸森（丸森）	山家とゆ子、星 吉子、	
筆甫（平館）	今野 優子、鈴木友子、	
大内（山屋敷）	高野せつ子、	
金山（金山）	山家とゆ子、星 吉子、	
小荷（麓）	金子紀久子、鈴木友子、	
枝野（畑中石川口）	大江幸子、今野優子、	泉 ふじ子

(五) 記録方法

被調査者自身が直接話す言葉だけを採録した。若しも地方語として一つのみならず他にいくつある場合にはその地方で使用頻度の多いものより記載しそれら全部を記しておくこととした。その記載方法に關しては万国共通発音符号の運用が望ましいが不可能なので曰本語の假名又はひらがなで以つてその音を忠実につかまえ記載することに統一した。特に「り」の音は例えは「^{ga}」の場合は「^{ga}」又は「^{ga}」とすることに注意した。

(六) 方言分布地図の作成

加藤正信先生の指導により調査用語の一項目ごと、一枚に十代、三十代、五十代の三グループにわけ年代別の言葉を見易くすると共に調査する際の発音やその聞きとり方の個人差のため着しい違いの感じられぬい微妙な発音や意味をもつた語は同じものとして扱い区別しなかつた。

尚、分布地図の凡例に示した如くその言葉を符号で区別できたことはその実態を把握させるのに容易であつた。

伊 員 郡 方 言 地 図 (用田女子高)

1
8
1

調査項目番号

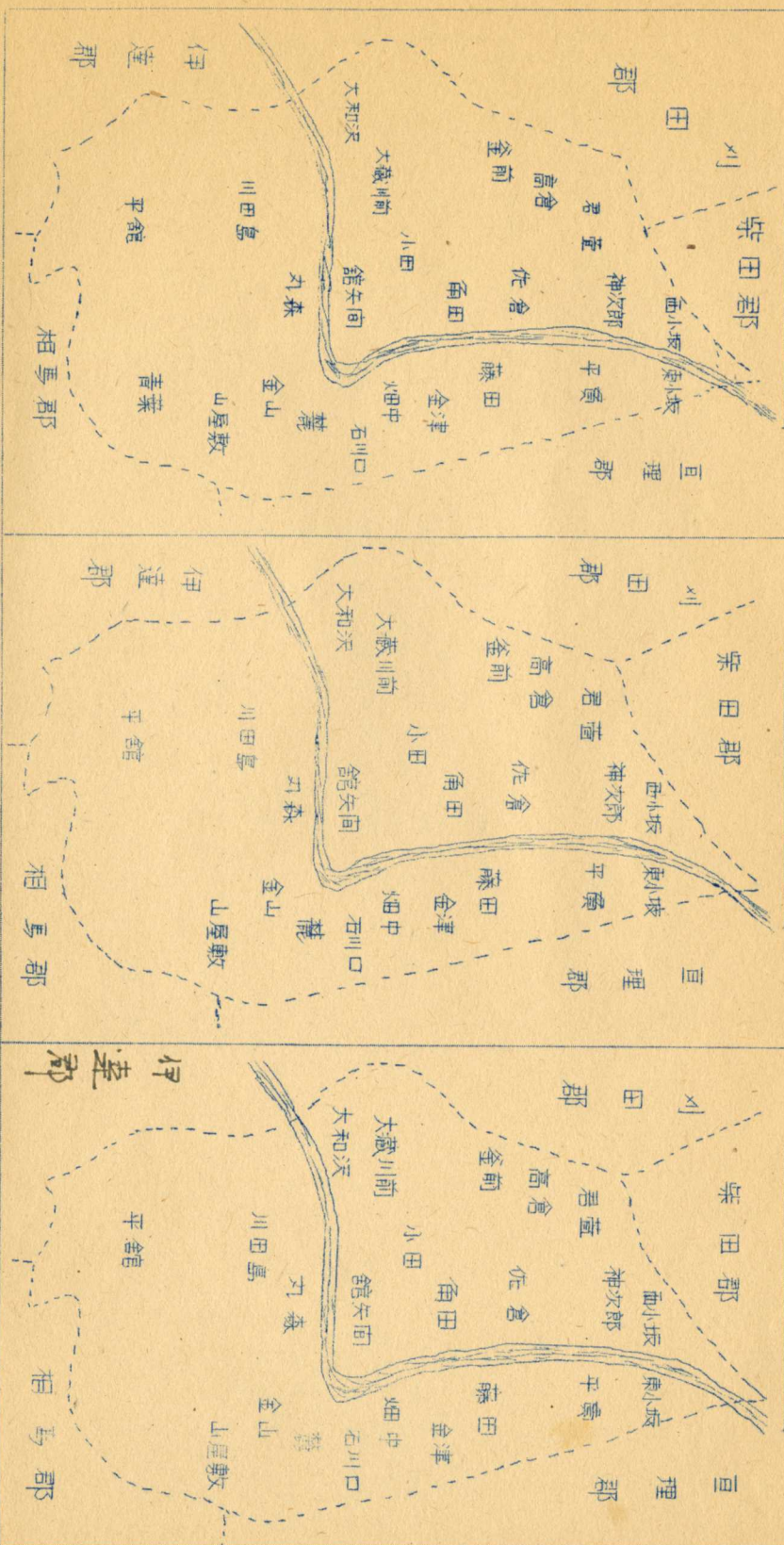
共通語形

同 例

10才台

30才台

50才台



調査者番号	調査者氏名	調査地奥番号
(フリガナ)..... 調査地奥		
調査地奥の主な産業		調査した場所
調査の日時 1959年 月 日		

被調査者氏名		生年
現住所		
職業		
経歴	<p>◎お生まれはここ(この町・村・部落)ですか。</p> <p>◎小中学校はここ(この町・村・部落)ですか。</p> <p>◎学校を卒業してから、ずっと今のお仕事ですか。(職歴を聞く)</p> <p>◎よその土地で生活なさった経歴はありますか <small>(どこでいつのとき)</small></p>	
父の出身地		
母の出身地		

備考 (調査地奥の概観・被調査者の特徴・調査の印象など)

1. (P) これを何んといひますか。ものを取るものです me
2. (P) 目の上の方にあります。こゝをぬいとかな。せまいとか云う時があります。こゝを何んといひますか。ゴーンと。
3. (P) これを何んといひますか。これを開かないと食べものが食べられませんか。又おの人がこゝに紅をつけることがあります。又ゴーンと。
4. (P) その下に丸いがとがつている（実際に指さして）ものがあります。これを何んといひますか。お。
5. (P) このへんを何んといひますか。（これをつかわないと頭を左右にまわすことはできません。又この手のこのへんのことを何んといひますか。（局部をさして）ゴーンと。
6. (P) われわれの手足や頭（実際に手で示して）の全部。お。
7. (P) 赤坊がく「ク」から水のようなものをたらしめていることがあります。その水のようなものを何んといひますか。お。
8. 切手をはるときべろつとぬめることがあります。そのときつける水のようなものを何んといひますか。（指先に少しつけてみせて）これを何んといひますか。お。
9. 切手をはる時口より出てくるやわらかく丸形のを何んといひますか。お。
10. (P) （絵をみせて）これに見られるのは年頃は十才位ですが何んといひますか。お。
11. (P) 色白で人によつては目に入れても痛くなくその木杓あたりをぬめてみたくなるような赤ん坊をみてお年寄り。は何んといひますか。お。
12. 色白で目がぱつちりとした赤坊のことを云う時はメンコイといひますね。それでは十才位の女で色が白くぱつちりとした人をみ何んといひますか。お。
13. その反対の顔つきをあの人は……の女だと云いますか。お。
14. 両親に死なれ、他人の家で育てられてる子が気持ちよくとりあつかわれぬ場合その子は……だと思ひますか。お。
15. 子供や大人のような食べものによつて食欲をみたしているのではなく、お母さんのすきすきのんでオギャオギャとなく子供をなんといひますか。お。
16. (P) はその家へ行って出されたお菓子をペロペロ食べた、誰とでもよくしゃべり、人の悪口を平

18. 氣でゆつたりするやうな人をどうゆうう人だと言いますか、
時に雨が降つてゐる時に何のする用もなく、友も遊びに来ないで部屋に一人

時に雨が降つてゐる時に何のする用もなく、友も遊びに来ないで部屋に一人ゐる時、アァー何
何だといふますが、ヤムーストヤム

何だといふますか、サム・スミス
あるたがおもしい本を講んでいる時

あるたが、あもしろい本を、読んでいる時、家のもの（例へば十才の子）がうるさい程に本を、読又はじめた時、せつかくの面白い本が、わからなくなる、ことがあります。これは、*reading* のせいだと言いますか。 *reading* と *reading* ですか。

20、
ますか。 No of course not
私をうしろにかく時エンビ

私たちはノートにかく時エンピツの先をくけずりますが長い時間~~使~~使っているとそのエンピツが太くかけるようになります、これはエンピツがすりへりーになったといひます。

ツが太くかけるようになります。これはエンピツがすりへりー！になったといひますか
S a k e g a m a y u i

21 普通ニヤツは拍目を内例に着すが汗でぬれたためその拍り目を外にして着るのさー！にきる

とていすか
URAGESI

「ごはんをたいて焦げついた時どんなにおい
がするといいますが、
KUS21

23 (P) 田植をする前田の土をならすため馬の世に使われる動物があります。又乳をしぼるためにかつ

てゐる物もありますがそれらを合せてなんといふですが、
ふい

24. 春の田に水をひいたり田植時期になると「エロゲエロとなくのかきこえますが、あれを何とい

くまをか。
K2EYU

25. (P) 普通のカエルよりもつと大きいカエルで背中にブツブツのあるもの。そしてそのそと歩

夕方や雨の時出て来て蚊などをとったりしますが、そうゆうのをなんといいますか。mosquito

26. (P) かえるの子供ですが水の中で生活し頭が丸くしつぽだけが見えるのを何といいますか。 (0.25点)

azyakusi

27(p) これは何といひますか。長文は五寸ぐらひなたの土の上をちよろちよろ走りまわります。色

はこころあたりでは美と茶のまじつた色をしたので見られます。その處はきぬやすくきつてし

まつてもその屋はうごいています。水の中には入りません。これをなんといいますか。トウズメ

これは何んといひますか。春から夏にかけて野や山でひうひうとんでいるのがみられます。色

は主に白ですが、茶、黄などがあり、この話をきくと茶の花を思い出させます。

こうゆう虫をなんといひますか。前足が草をかるかまに似ていすす。おこるとそれをふいたフ

- 46 (P) 冬の寒い日に空から白いものが、ちらちら降ってきます。何が降るといいますか。 (トニー)
- 47 水気のあるもの。たとへば濡れた手拭などが寒さのためにかちかちになることがあります。こ
うなることをどうなるといいますか。 (スティーヴ)
- 48 (P) やはり冬のことですが軒先などにさがる「コオリ」の棒です。これを何んといいますか。 (Toby)
- 49 本当は人のものを盗んだのにその子がいや俺は「盗まない」といいました。その子は何んとい
ったことになりましたか。本当の反対です。 (スティーヴ)
- 50 あなたと同じ位の人に対して夕方から夜にかけて、別れの挨拶はなんといっていますか。 (Sally)
- 51 夜道路などで相手があなたと同じ位の人に会った時その挨拶はなんといっていますか。又目上の人
に対してはどうですか。更に他人の家を夜訪問した隣親しくしているあなたと同格の家の場合
ふだん行き来しない目上の家の場合各何んといっていますか。 (スティーヴ)
- 52 慮でない子供はみつからないうようにあちこちにかくれる。みつかった子供は次第に慮になる。
そんな遊びのことを何んといいますか。 (スティーヴ)
- 53 (P) ひとりの子供が鬼になつてほかの子供たちを追いかける鬼につかまつた子供が代つて鬼になる
そんな遊びのことを何んといいますか。 (トニー)
- 54 小さな子供たちがゴザ等をしいてお父さんになつてみたりお母さんに或は子供になつてみたり
して遊ぶ遊びのことを何んといいますか。
- 55 主に子供の遊びなのですが小石位の全く丸いものでガラス製です色はいろいろありまして、自分
のもので他のものにぶつけければ自分のものである遊びものです。 (スティーヴ)
- 56 女の子の遊びものです小石位の大きさで平らかで丸形になつています。それを地面でとか特に
セメントの上で親指や人指しめひではじいて遊ぶものです。 (トニー)
- 57 (P) 女の子の遊びものです。あぶきや小石などを入水てありますがこの遊びものを何んとい
いますか。 (トニー)
- 58 (P) 寒い冬にしかも風を利用して子供たちが野原でヒモをつけて空高く上げて楽しんであります。
形は色々ありますが四角形をしてあります。この遊びものを何んといいますか。 (スティーヴ)
- 。但し (P) : 略図使用

七 加藤正信先生よりの指導助言

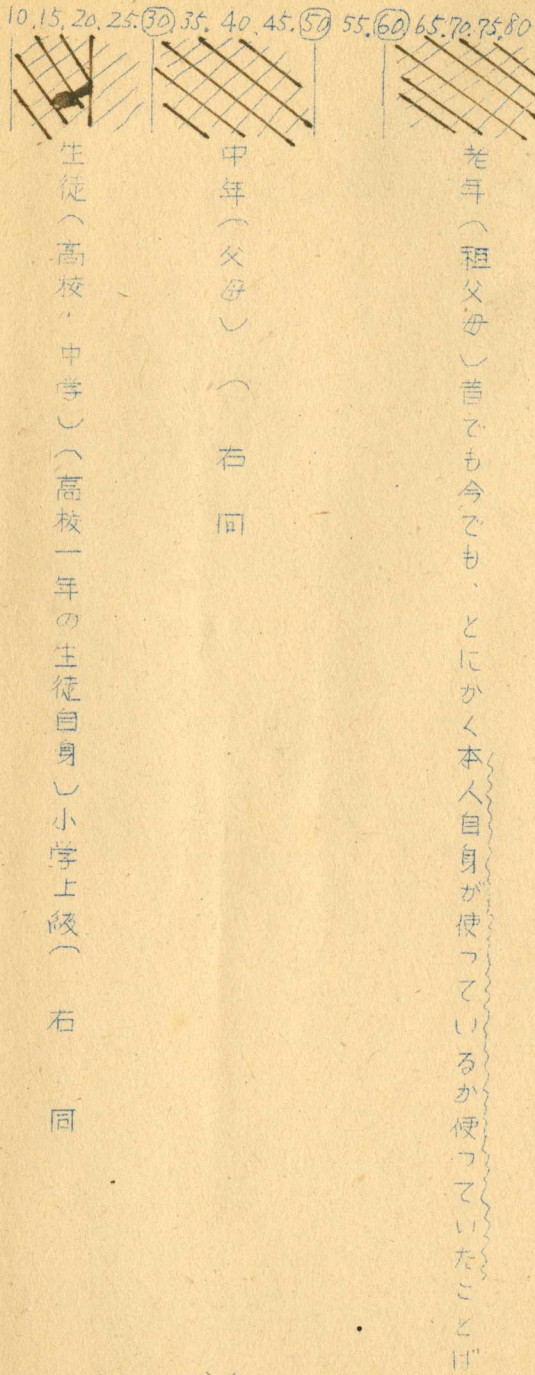
鈴木先生

お便りうれしく拝見致しました。綿密な御計画、非常に結構に存じます。
つきましては、先日同様何もお役に立たないとは存じますが、おことばに甘えて七月四日（土）お昼
休頃御校にお邪魔させて頂いたいただきたく存じます。伺ひよろしくお願い致します。
さきほど、国語学の主任の佐藤喜代治教授とも御校の御計画のことについて話し合いました。教授も
非常に関心を持つて居ります。

六月三十日

加藤 正 信

被調査者の條件は、その部落で育った人であれば女性でも良いのではないかへむしろ生徒自身との
間における世代の差を比較する場合には女性のほうが、性を一定にしておいて世代だけを渡えるとい
う意味で言語の差異の要素の分析上好都合か」とも愚考して居ります。



項目「かまきり」

のようにして、ひとつの項目について、三つの世代にわたる分布図を画くことを目ざしたりどうでしょうが。たとえば、空想図ですが

老年



中年



若年



の如くです、世代の差に重点をおけば、それほど郷土誌にこだわらずとも「言語生活」という面から考察できる、生きたものになるかと存じます。

鈴木先生

先日は御校にお邪魔いたし、衆しく過ささせていただきましたことを御礼申し上げます。

さて、調査項目の件ですが、調査しやすいものをオ一に考え、なるべく伊具郡内で老のあるものを私の案として選んでみました。ひとつの郡の中ではつきり方言分布の境界が引かれることはめつたにありませんので面白い結果のでそうなものは数項目しかないと考えますが、伊具郡内では同じであるという項目でも、あとで、亘理、紫田、刈田、伊達、相馬の諸郡の伊具郡すりの地域に通信調査をすれば伊具郡に入ったとたんに変っていることの解るものもあるかと存じます。ですからやりがいがあります。

伊具郡内にお住まいの方へ

なほ、国語研究所の調査票のところに（絵）とあるものは、その絵が私の手もとにありますので、調査表附図を、生徒さんがお書きになるのをでしたら、指定された絵を私が調査に使わない期間ならお貸しいたします。私は八月一日ころまでは仙台に居りますので、調査票に關して、また、出来上った調査

票にする調査の仕方などについて、もし御希望でしたら、さしでかまじいようですが、よろこんでお邪魔させていただきます。

とりいそぎ乱筆にて矢礼致します

七月六日

加藤 正信

調査項目の説明文は皆さんが調査しやすいようになるべく普通名詞を多くしてみました。これは、私としての意見ですから、適当に取捨しさらに新らたにつけ加えて下されば結構です。その場合普通名詞とか単純な動作を表わす動詞などの方が望ましいと思います。

なほ、調査項目の排列も意味の関連のあるものをつづけて行くというふうに工夫すれば、それだけ、調査の際は相手の頭に抵抗を生じさせず、スムーズに行くことと思います。

部厚いアンケートの山を整理し、精選して百二十一項目について地区別方言の一覽表を複製された皆さんの御努力に敬意を表します。調査が難しくなるのをここにはとりあげませんが捨て難い貴重なものも沢山ありました。

拝復

お便りありがとうございました。学期末のお忙しい中をこの調査研究のため御精進されている由敬腹致して居ります。

さて、五項目にわたる当面の御活動について潜越ながら愚教しているところを述べさせていただきました。失礼はお赦し下さい。

1. 調査の説明文について

御苦心御工夫すばしく思いました。ただ説明の文章はあまり長くせず、普通名詞の場合は実物または絵を指すことと主として説明文は補助的にした方が回答がスムーズに行くのではないでしょう。かゝる印の項について愚案を示します。

1. 「体」：図令の手足胴全部を指す。順序は身体の各部分の終つたと筋のあとが適當。
 2. 子：絵を用いる。ウナ、アソコ、ひは

My son my daughter were on the stage

13. きれいな赤ん坊のことを言うときは、メンゴイ()です。では、今度は二十オぐらいの女の人
色が白く……

17. 遠慮ない……その家へ行って出されたお菓子さ。ペロペロ食べたり、誰とでもよくしゃべり、人の

悪口を平気で言ったりする。うな人をどういう人かと言いますか。

19. これにあたる方がどういふ場合のニュアンスを指すのか、それを調べないと規定で
きません。

26. ひきがえる……普通のカエルよりもつと大きいカエルで、背中にブツブツのあるもの、のそのそ歩く
26は24の次に入れたら良いでしょう。

43. タ 立……夏の夕方大ツブの雨が急にザーと

49. う そ……本当は人のものを盗んだのに、その子がいや俺は「盗まない」と言いました。その子は
何を言ったことになりましたか、本当の反対です。

2. 調査地、被調査者、御計重結構に存じます。

3. 略図

4. 調査期日

5. 白地図、結構に存じます。調査票ができましたら、それに倣って、先生が一回主役文んの前で調査
の模範演技をおやりになることをおすすめてします。全員の賛同法を文章だけでなく、実際の雰囲気ま
で統一するためにも、また、答のどうもないときは、調査票の規定の許す範囲内で、ユーズとき
かせて説明することの可能なことを先徒に急得させることのためにも、答が二つ以上でた場合、そ
の意味の相違、ニュアンスの相違、新、旧の相違などを必ずききとり注記をすることなどをあす
めします。

なほ、絵と同封で拙論を贈呈致しますので、もし御参考までに御笑覧下されば幸甚に存じます。
本格的な御活動さひかえ、ますます御奮闘なされることをお祈り致します。御成功をお祈り致します。
七月十五日

加藤正信

伊 貝 郡 方 言 地 図

調査項目番号 1 共通語形 目

凡例

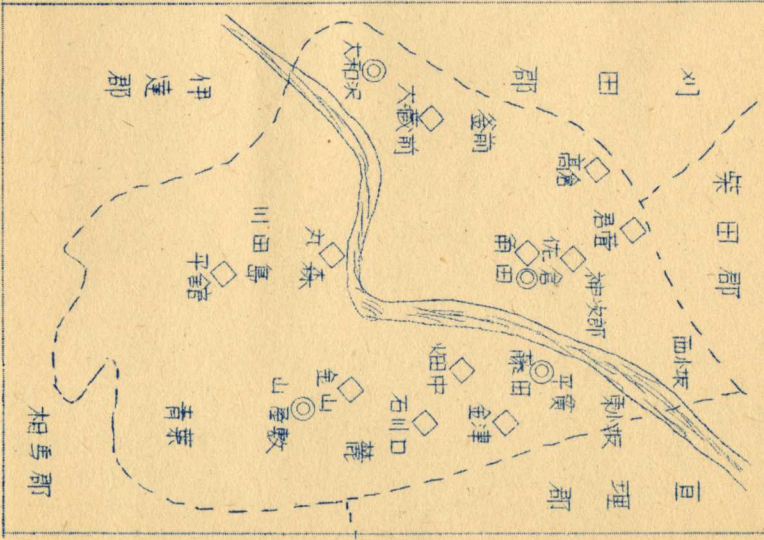
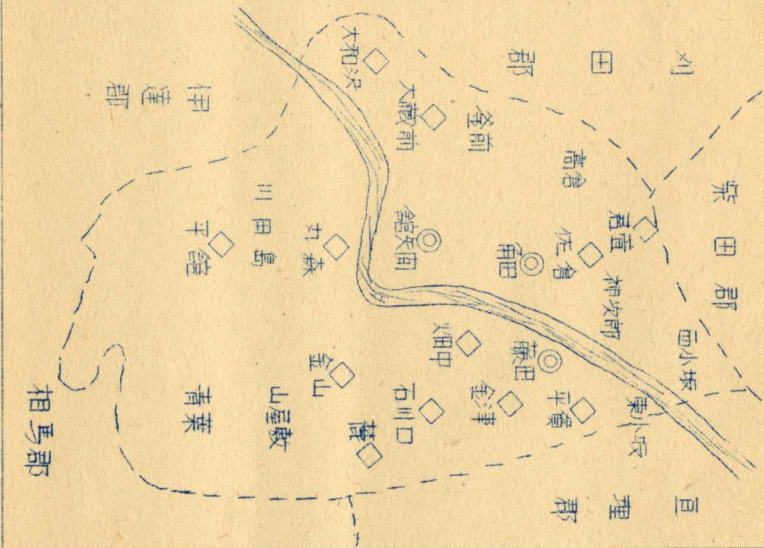
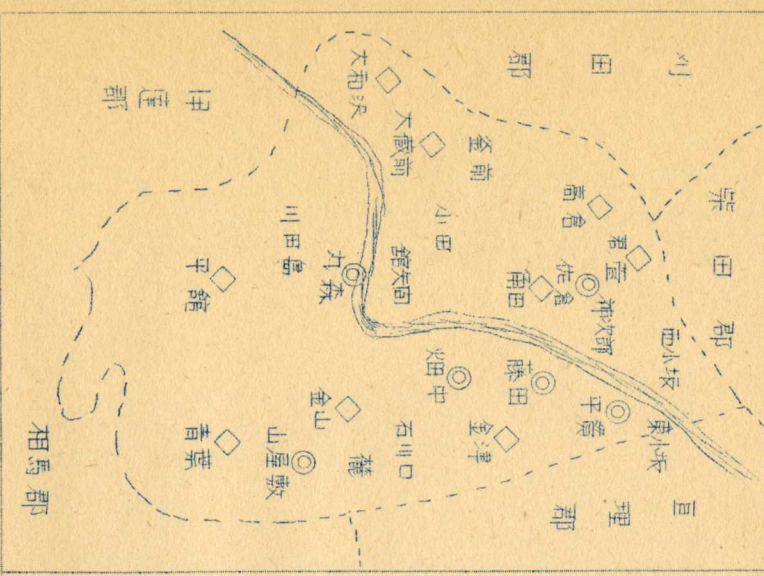
◎ ×

◇ マナグ・マナフ

10才台

30才台

50才台



「三郎」の「アナム」「アナム」を「拍撃の」「かなり」に由来するものを
 呼ぶ
 「メ」といふ拍撃が藤田・佐田・大塚家のものなる三郎にアナムに、アナム
 大塚からアナム大塚・アナムに移るにつれて、藤田に拍撃して行くのが聞
 かれる。

三郎はアナム大塚になつても「メ」といふ拍撃が使われていない。
 のことから三郎の拍撃から共通拍撃が變へたと考へられる。
 四といふ語を拍撃で聞くと、拍撃として「アナム・眼」などが響いては
 いた、このことから、今では「アナム」といふ拍撃が使われていない。
 五では「アナム」といふ拍撃が出来る。
 六といふ拍撃の拍撃を聞くと何かの原因で拍撃が發生、起つ拍撃カ
 の影響がないとすれば今から二十年後には東面南北の方にも拍撃して行
 け「アナム」「アナム」が「メ」といふ標準語に改つて行くかもしれ
 ない。

一 耳 小 野 田 中

伊 興 郡 方 言 地 図

調査項目番号 2 共通語形 ひたい

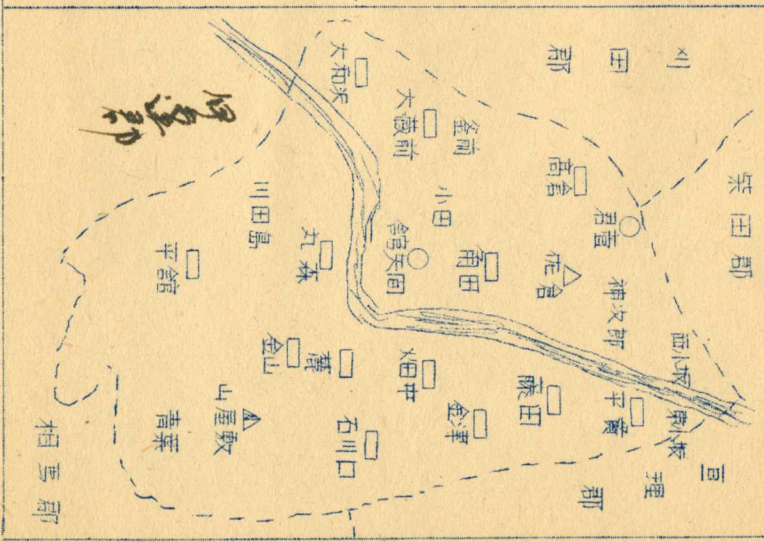
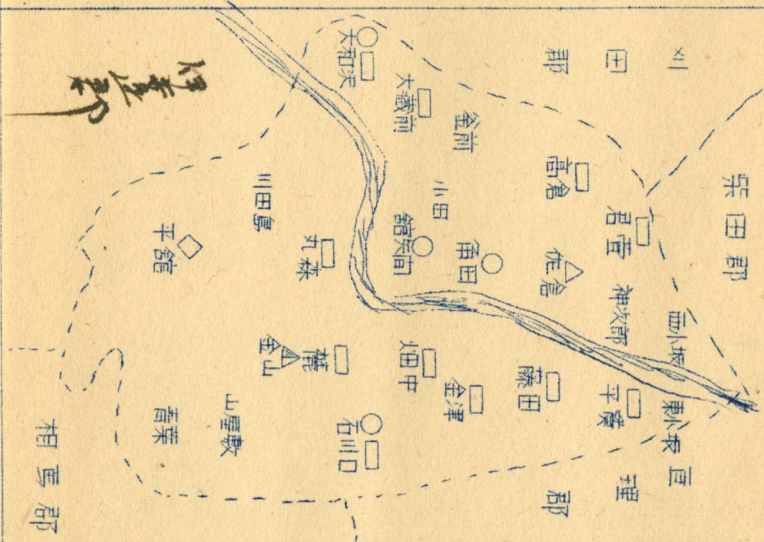
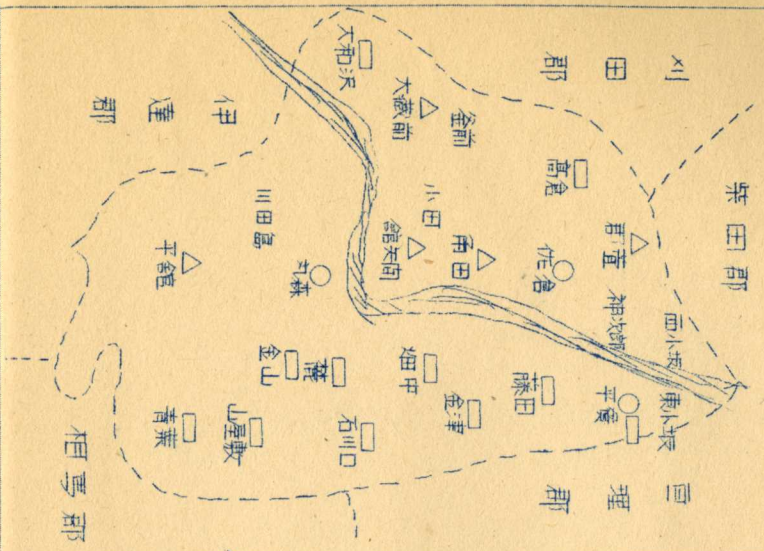
凡例

- タイ・シタイ・ヒテ
- △ テナシ
- ◇ ナシ
- ナシ
- △ ナシ

10 才 台

30 才 台

50 才 台



ヒタシは東國語形、五十一代、三十代、十代を擧げて觀ると川類文に侵入してゐるやうに感ぜられる

五十一代では、三に於いて「ナズキ」「ナズシ」の變回が多く一部の例外として錦糸回は東國語に近じ書體を使つてゐる。同じく五十一代の佐倉で可變らしい「ナズコ」といふ書體が觀られた。

五十一代の入が田十年前に歸してゐた書體を觀せしむそのまゝ又はそれに近い書體を改えなうで現在語にしてゐるといふ前説がなつたつとすれば、現在の十代と比較する事はその田十代の回にいちに書體が變化したかといふ事が推論する事が出来る。その改化は三十代と五十一代との變化を觀せみると田田・錦糸回を中心にして東國語又は東國語に近じ書體が發主してゐると考えられるであらう。

それと、その後二十年の回に「ナナ」や新語として發生したのだから。十代では南の方で使つてゐる事が觀られる。又、その現象が文書形「ナズキ（ナズシ）」は西のなへおし流されると同時に西郡の上回部においてとも同様のことが觀られる。たとへば南倉、大和沢そのまじりていまだにとどめてゐるのであらう。

一耳 佐藤 ひろし

上田郡北郷より文化裡程が遙く人口密度のある平野から山間地帯へ移住が流れてゆく区段がこの場合も考えられるとすれば、五十代の分佈地図にみると、阿武隈川一帯の平野が「クナビル」といわれ、山間部が「クナビル」といわれてゐるが、以前は当地域が凡そ「クナビル」と共通語形がつかれていたと推定されるであらう。その原因は今後の問題だが何らかの動機に「クナビル」が「クナビラ」と変化したと考へざるを得ない。

要にこれが二十年の経過するにつれ、以前の共通語形「クナビル」が西に発生し、それが紋紋城に伝はり、以前使用されてゐた「クナビラ」が比較的文化の遅れ、~~殊~~山間部へ押し流れてゐるようである。それが十代にあつては三十代よりは更に遙かに域へ伝へられてゐる。又西に出現した共通語形「クナビル」は阿武隈川一帯がその発生地ではあるが、その中の何處という根拠がなないので断定はできないが、田田、ヲ林を中心に行われたものではなからうか。

鈴木 木

伊 興 郡 方 言 地 図

調査項目番号 4 共通語形 あこ

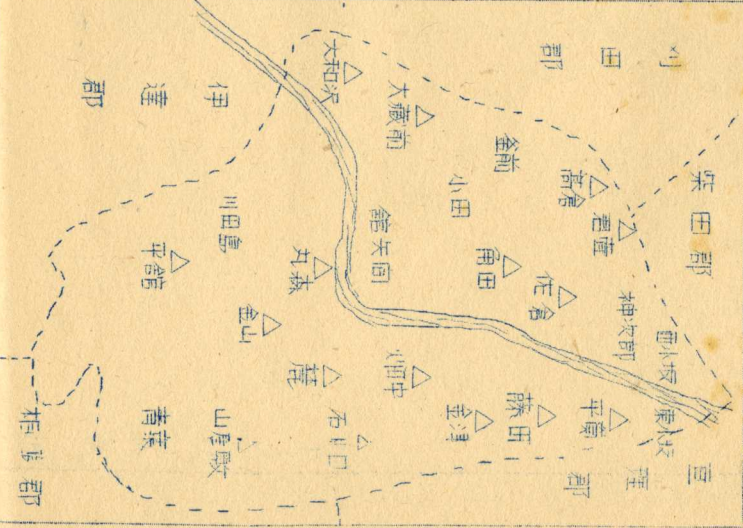
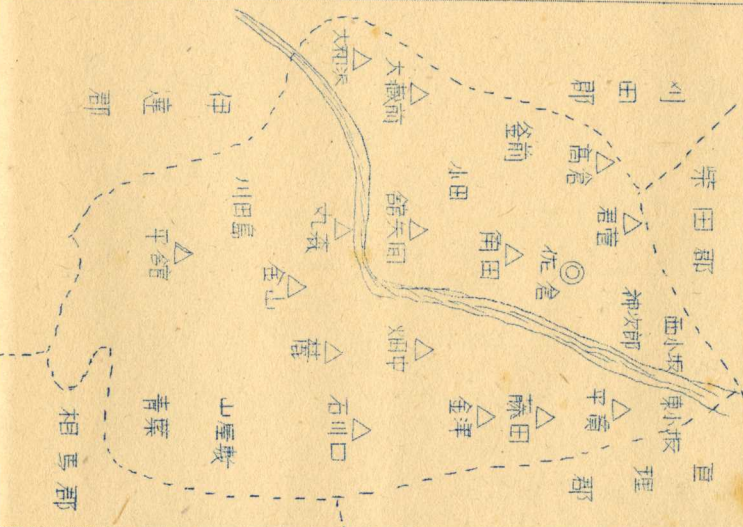
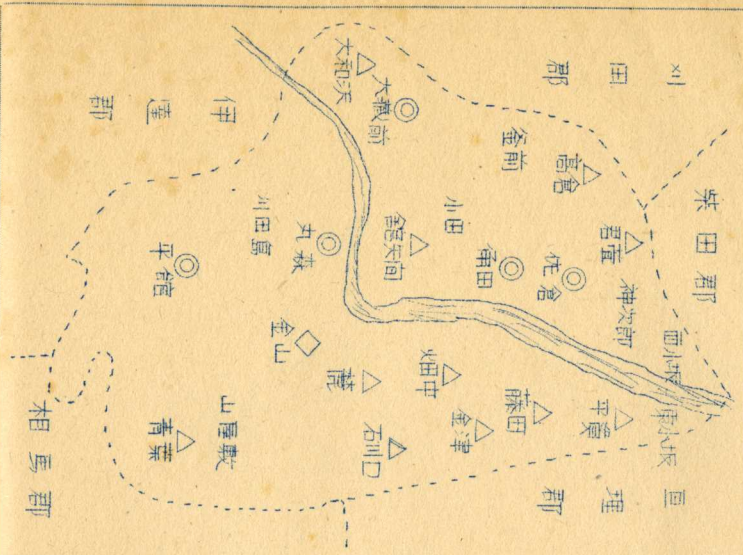
凡 例

- △ オトリ・オトリ・オトリ
- ◎ アコ
- ◇ アアド

10 才 台

30 才 台

50 才 台



五十才台は全部「オト」^ト「オト」^ト「オト」^トと言っているが、三十才や
 になると、佐倉に共通語形「アゴ」という言葉が入って来た。
 十才台には箱田、丸森、大蔵川前、平館のうちに「アゴ」の範囲は大部
 広くなつて来た。
 世図 その連絡を見ると、北の方から南に向つて順々に使つて来てい
 ると思われる。箱田、丸森はいつでも国境前後を交通もけしめるある。
 中心を算から「アゴ」という語は早くから発達した。仙石、船岡、田
 原の方面へ露出しに行つた行商人が自然と覚えてきてそれが普通に使わ
 れるものになつたのだらうと思ひます。

三A 睡 扣 け

この地図を見ると五十代より五十代が多く共通語を使っていることと阿武隈川に沿っていることと阿武隈川に沿っていることとそれに奥地に入らず人口密度の高じ地方が共通語を使っていることがわかる。

五十代と三十代と比べ一般に「クビタ」「クビタ」は阿武隈沿に親に語られていた方言がその共通語形に影響され、消滅しているのは明らかである。その共通語形がどの方面に入りこんできたかは知らないが、川沿に語られていた方言が多くの共通語を押しつけるかは、学校ではもちろんだし、語が共通語を使っているのは自分の言葉は通と通うと思つて自然となるものである。だから五十代より五十代の方が多く使っていると思われろ。それから奥地と町では奥地の人は不便なので人の出入りも少ないし、だからさうだけの言葉でお話しているのではなからうか町では多く人が出入りするし、他の部落からきた人が話するに聞いてもわからなうと思つたはず、やっぱやかりやすに共通語でお話するものになるのである。

一冊 池田 せし子

田風豐水州子

形體通共 6 四國體體

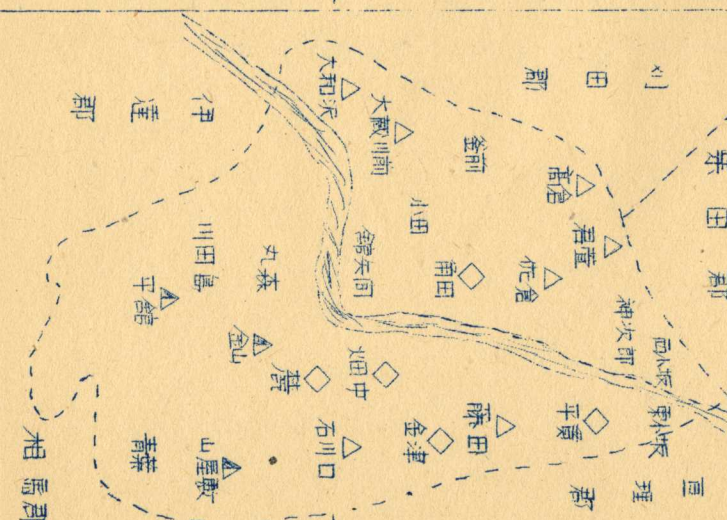
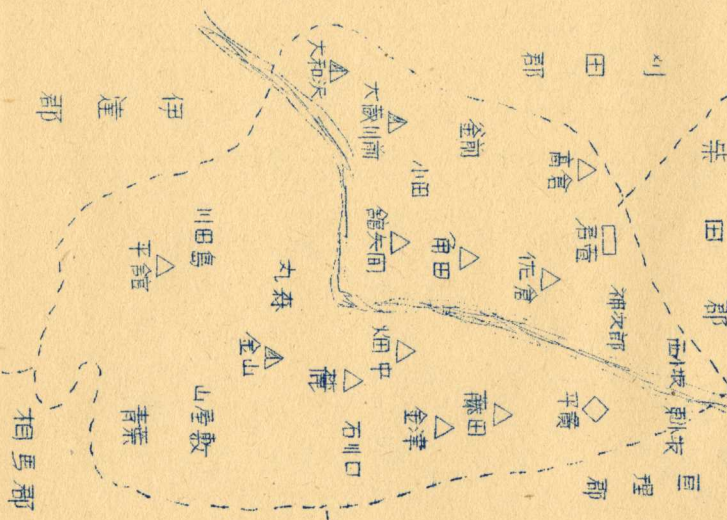
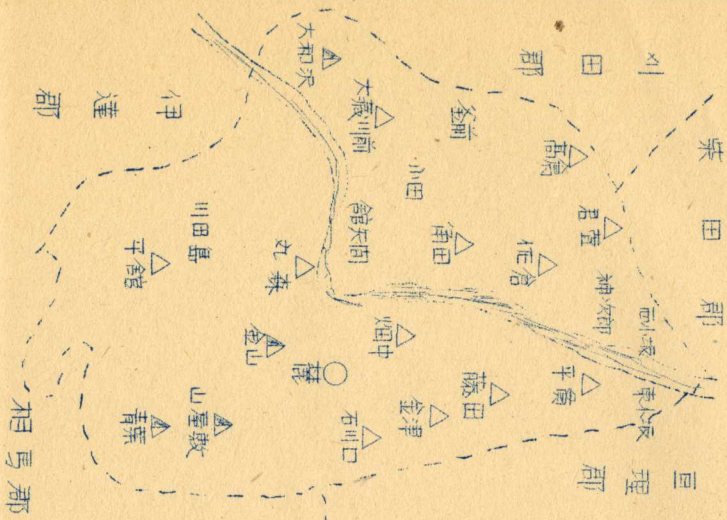
凡例

□ ○ ◇ ▶ ▶
 ♯ π π π π
 ♯ ∞ ∞ ∞ ∞
 ♯ ♯ ∞ ∞
 ∞ ∞
 ∞ ∞
 ∞ ∞
 ♯ ∞

104

三〇本

50 7 10



五十代の図をみると「ヒズジリ」「ヒズヅキ」がだいが使われているのに対して三十代・十代と時代が流れるにつれて消えていき、四十以後の十代では全く使われず、かわりに「ヒジ」「ヒズ」が圧倒的に多い。これは古くから伊賀郡内に使われていた共通語「ヒジ」「ヒズ」の勢力におされ消滅し十代の分佈図のうちに比半令に今日迄まゝつていゝところであらう。

これに対して前半令では、ある一部をのぞいては「ヒニコギ」「ヒッコニ」が五十代・三十代・十代と夫に使われているのはその他の山回部のため交通が幹線としていふことと理由にして現在でもそのまゝ残つていゝやういふ。

十代の分佈図に「ヒジヤ」と表わされているが、これは被調査者の聞きかひからでてきたものではなかつたやうか。？、なぜなら「ヒジヤ」とは足利の「ヒサ」からなまつたものであらう。

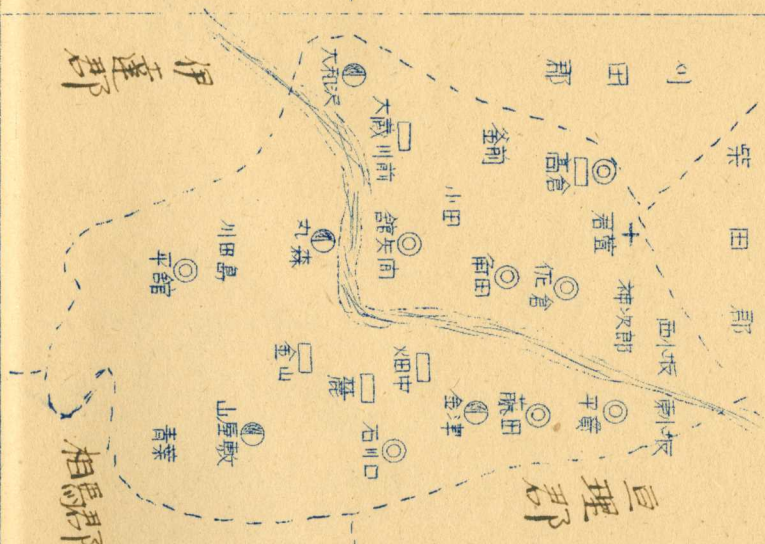
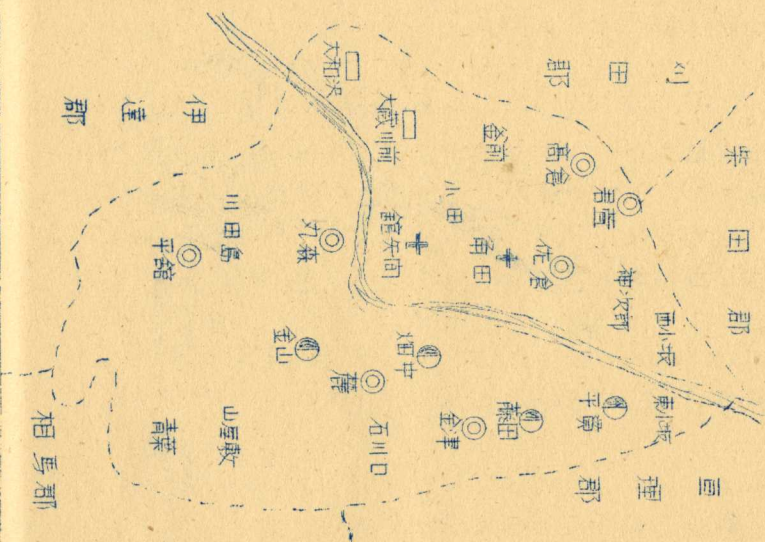
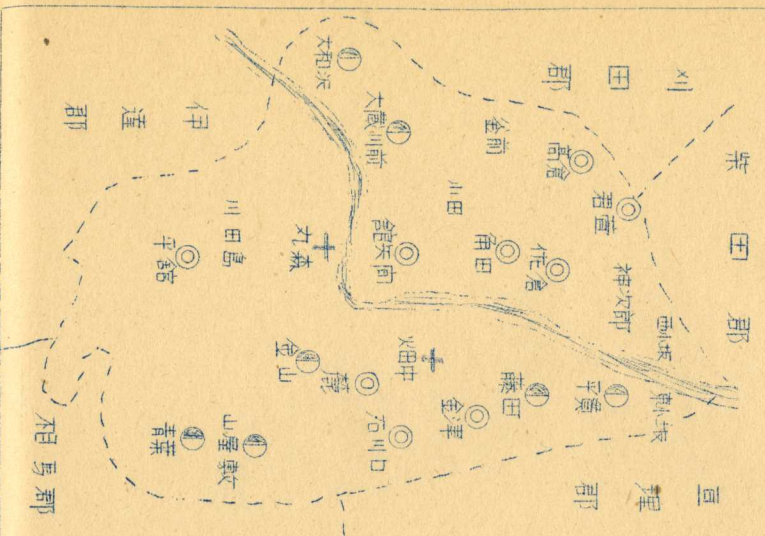
三十代で別置に「ヒサナ」といふものがみられるのは、面白い表現だと思つた。

五經

台本 10

3041

5044



五十才代＝川の下流の地域で「タムベ」と言っている。丹波・上郡で「ミタキ」等が用いられている。
三十才代＝河内・河津・河原・河原・河原に「ミタキ」等が用いられている。
十才代＝金く「ミタキ」と言っている。世にみられぬ。

このことから記述は河内・河津・河原・河原・河原に記述は
ミタキ言葉は山の方に多い。しきじには消えて行くといふこと
がわかる。
例えは「ミタキ」「ミタキ」等が以前は当地に全載に言われてい
たがその後に表われた「タムベ」「ミタキ」等は消えて移されて十
才の今日に消えて「ミタキ」は消滅しているとみられる。今日の東部
側は一部に「ミタキ」等が用いられ、これが更に丸森・河津に西部へ
移つていったと推定される。

伊貝部方部

調査項目番号 21

うらがえし 形語共通

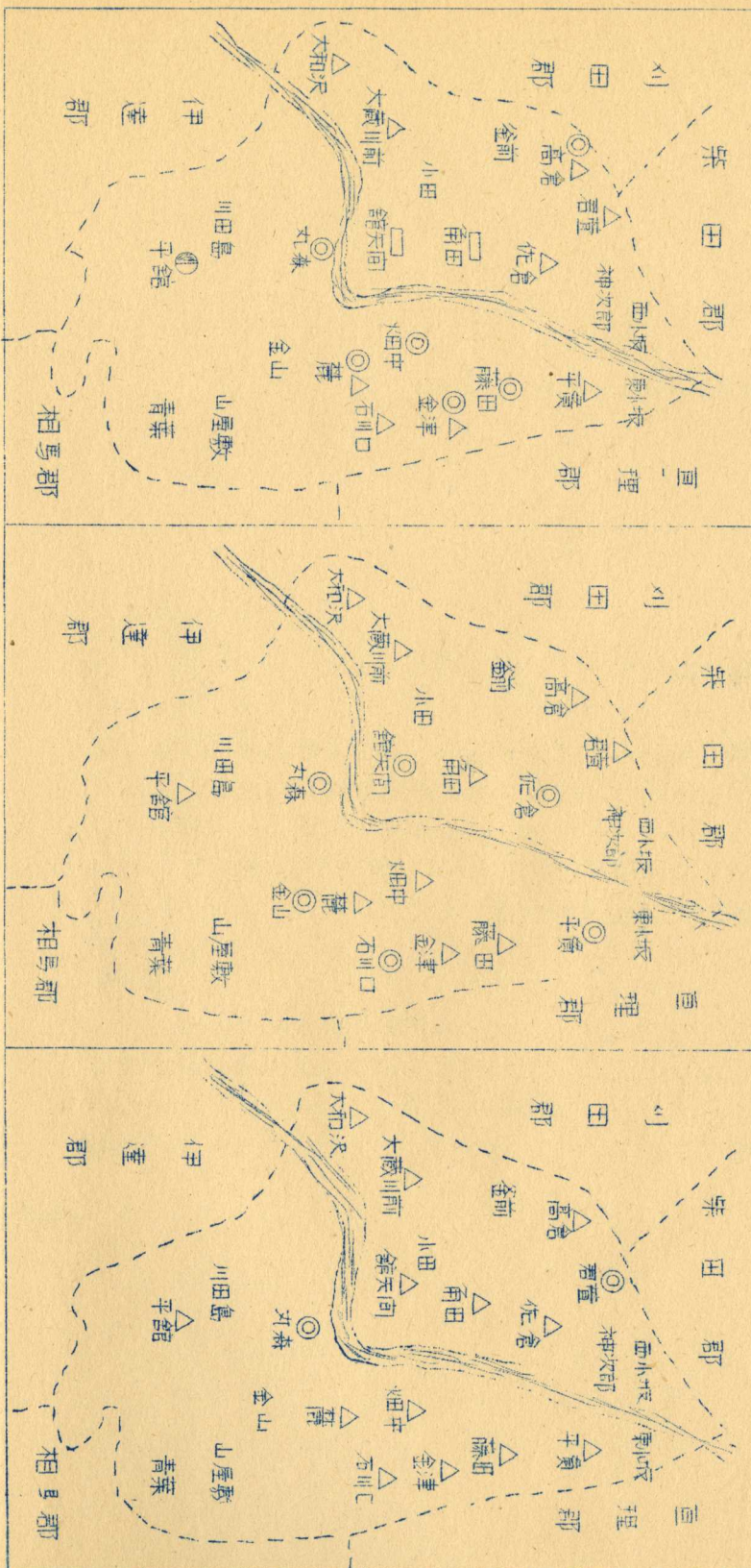
例

○	□	△	◎
>	H	T	L
V	A	I	E
X	N	+*	K
Y	.	A	H
	"		"
	A		.
	N		L
			E
			T
			I
			S

104

3041

40 7 50



現在より、田十回野が前にあたる三十代の人達に圧倒的に方言形の「ト一十ヤ」といふのが多く、刃林と黒置のみが共通語形が使われている。三十代では子野地帯でも方言形「ト一十ヤ」が使われているが、三十代をみてみると、共通語形がどんくかえている。と共に方言形は徐々に減少している。その共通語形が増えている中心地は刃林で、金山、石川口に移動していったと考えられ、田田の川回し全般に共通語形が使われているであらう。十代では刃林一帯と同様に田田周辺も共通語形が使われていると思つたが、調査上の不足も考えられるけれども、「ギヤク」「ジヤク」などといふやうな結果が出た。しかもに裏返しで「ギヤク」「ジヤク」と言っているやにも考えられる。この点西檢討を要すると思われる。

此図全般をみて差をうけることは、時代が遷るにつれ、共通語又はそれに近い言葉が語られてゐる。十代にあると三・三ヶ村もので、それら共通語がみられる。又、共通語の「コサクサ」の語つた「コ

サクセ」が相当にみられる。

これらの変化の状況を見ると五十才では特定な区域ではないが若干の地域に共通語形がみられるもの、方言形は川沿いを中心に広がって語られてゐたが、三十代と比較してみると、この二十年の間に川沿に漸進して共通語形があらわれ方言形は川沿いとはいへその範囲は全くせばめられ、更に十代に至つては南北に流れるに河試隈川を境にはさみ、東部側に共通語が語られ、方言形は岩倉、高倉、大和沢の北西の山面部にその名残りとしてみえているにすぎない。

思ふに五十・三十代の二十年河試隈川沿に新語としての共通語がその周辺の方言形と移動又は消滅させ、次の二十年度に方言形は北西部へ移動していったのである。

二年 国 票 やまわ

伊奥郡は国囲山にかゝられた盆地であるため、言葉自体が仲々標準語に近くならない。これがため、この伊奥郡に生まれ、育つたものには固まりなれた言葉であると共に何んともなく親しみを感じずるものではないだろうが、この因で聞くと、むしろオ古に依然「ヤコ」が多い。

現在では田畑を耕やすのに機械が使われるかうになつたが、むしろオ古の人々には家畜がすなわち田畑を耕やす原動力となつてゐたため、牛や馬に對しては、家族の一員としての感情を多分にもちてゐるために「ヤコ」と呼んで親しんだのではないであらうかと聞かう。

むしろオ古は穀田畑入経営の自動車化を遂げずいふを要したし、三〇年代ともなると言葉使い等にも注電ではうい、方言を使つては田が果てない結果だと聞かうが、国田を中心として国囲三、三ノ市に標準に近い言葉が多く聞かれる。

しかしながら一。オ古では、それとは逆の現象がみられる。つまり、オ古と同様な方言形を一。オ古でも使つてゐるところをみると、三〇年代の人々は対外的には、共通語を使つてゐるとはいへた。家庭内では又ハ方言形を使つてゐるものと聞かう。

従つて五〇代、三〇代と方言形を使つたため、互に快通にとつても方言形に不便を感じず、全地域に使用されてゐるのであらう。

塩 野 ミヅホ

伊 興 郡 方 配 地 図

調査項目番号 24 共通路形状 畦

凡例

○カエリ・ナール

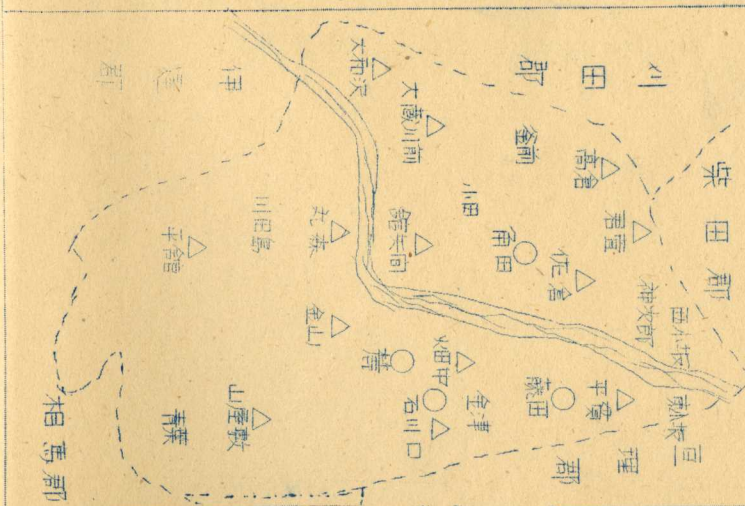
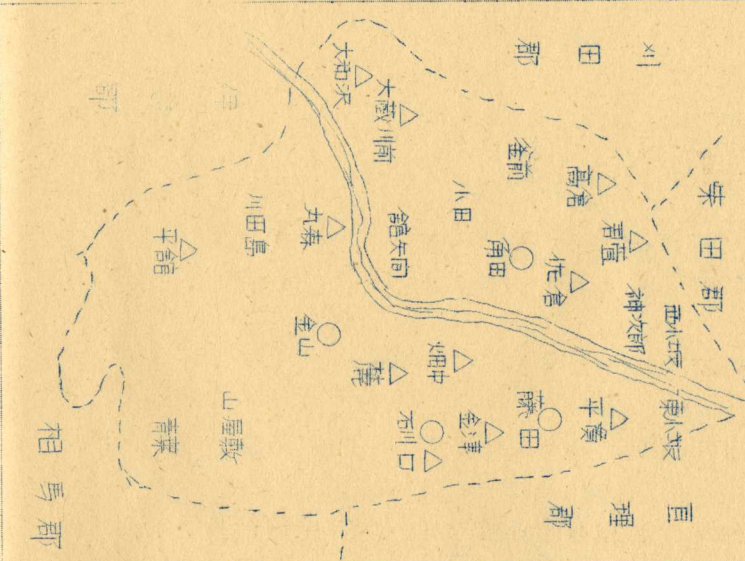
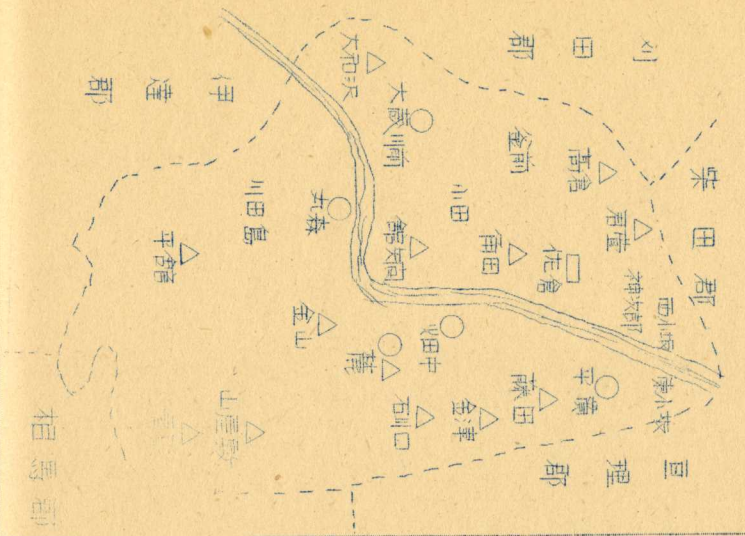
△ブーリ

□ブーリビツナ

10才台

30才台

50才台



伊 奥 郡 方 言 地 図

調査項目番号 25 共通語形 ひきがえる

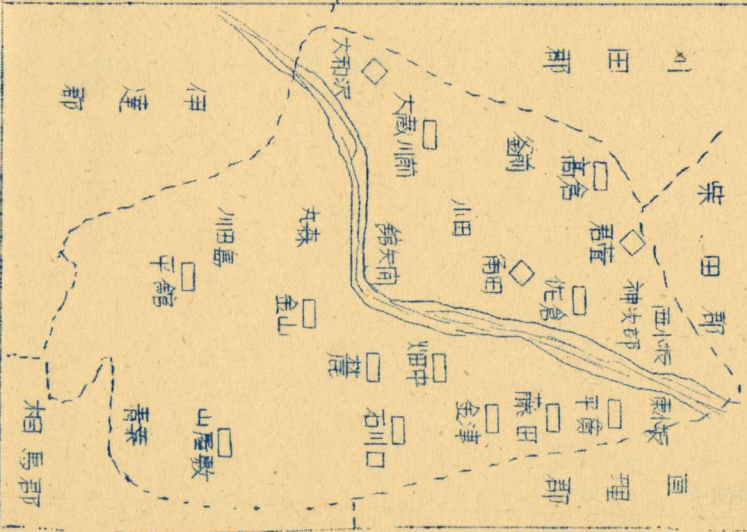
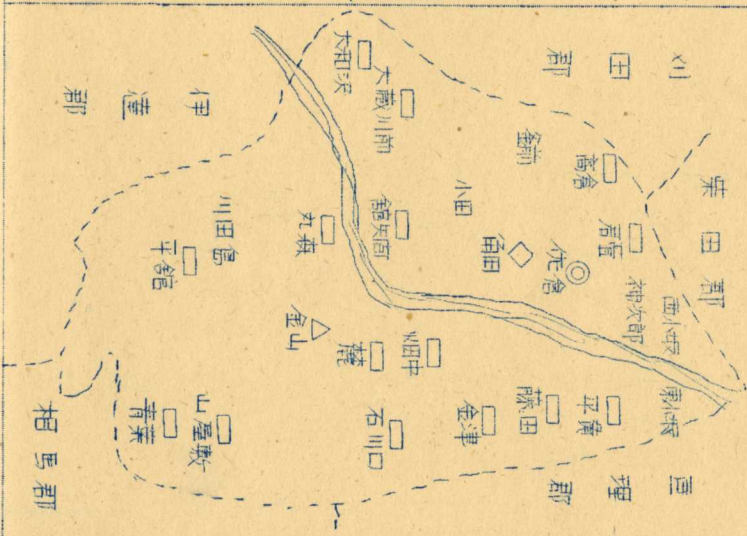
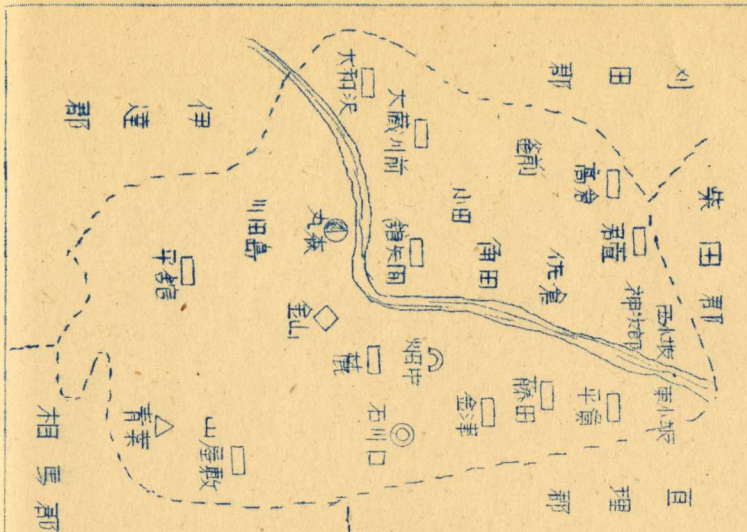
例

△ 方言
● 方言
○ 方言
◇ 方言
□ 方言
△ ガイム
△ ホスミ
△ ヒトヒ
△ ニ
△ ルルキ

10才台

30才台

50才台



かきかえる

この図でみると「ビギガエル」という言葉がこの地方では種々の呼び方でいわれている。
 五十才代においては「カエル」は職作物に害を及ぼすものとして忌み
 かれてきた。
 図でみると「アミビツキ」の中に「ビスドール」が入ったのは、
 がえるは肩体全体が黒く、からだは短かく肥大にして「ドーズ」つまり
 「うい」の衰衰を形容づけてこのように呼ばれたのかも知れない。
 三十代みると「アミビツキ」の中に「イボドール」が「アミビツキ」
 に入れられてきた。
 それも川にさつた所にミ・ミ・ミにみられる。
 十代に入っても「アミビツキ」が大部分の地域で語られている。
 それは減少し、その他に「カドール」「ガマ」「イボドール」「ビツ
 キ」とそのない方は数が多くなり地域別に分化する現象がみられる。

三年 菅野 ミツ子

凡例

伊 賀 郡 方 言 地 図

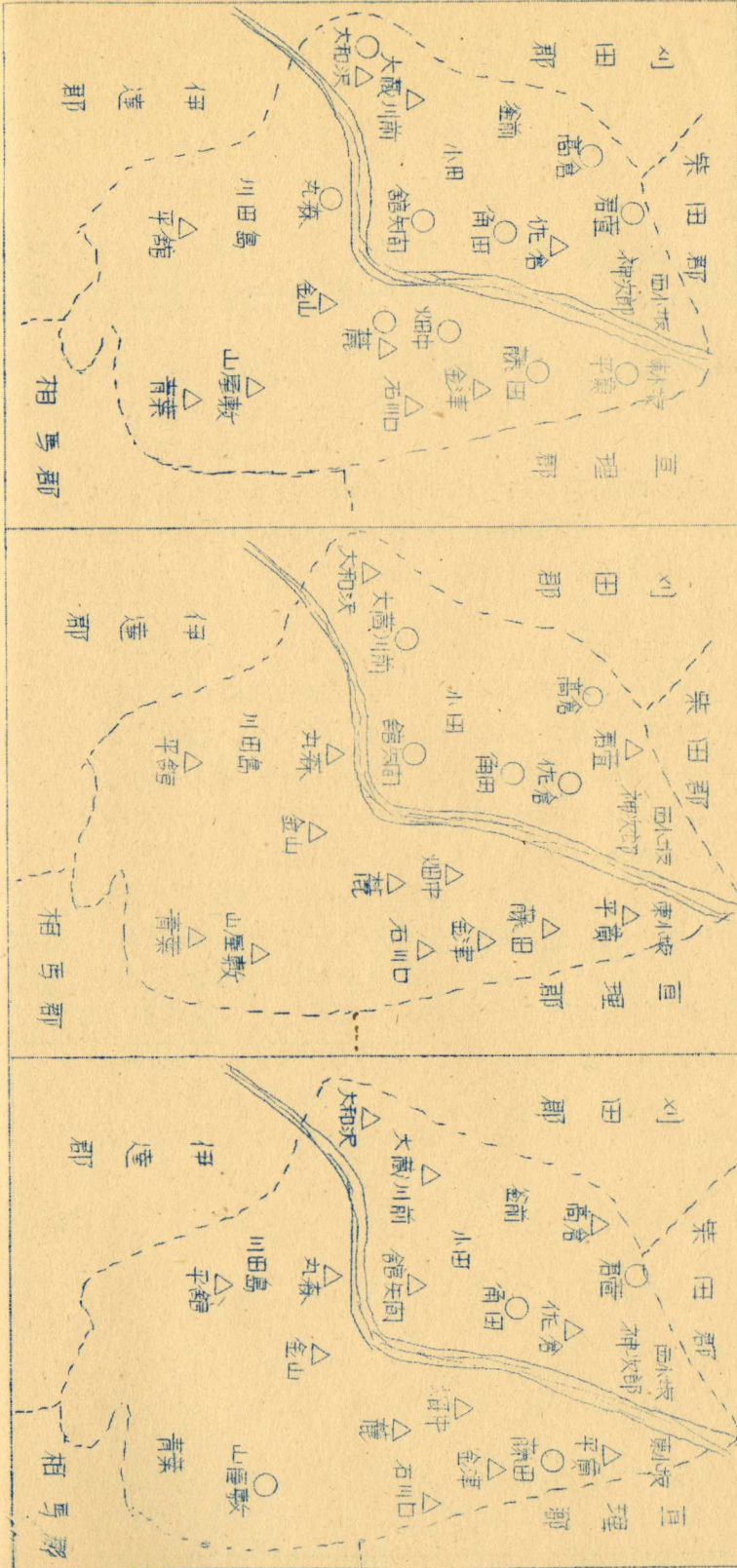
調査項目番号 28 共通語形 ちやう

○ 4 ヨー ナ ヨー
△ ナ ヨー ナ

10 才 台

30 才 台

50 才 台



五十代では共通語が方言のナヨーンに比べて三分の一位であるが十代になると共通語がその半分以上を占める。

五十代、三十代では窪田で中々に共通語がその付処になめうれたと考えられるが、十代になると窪田、鉛床面方面から大森に移って来、そこから枝野方面に広まつたとも考えられる。

それによっておち十代の方言分布区としてみると、阿武隈川流域並ぐに北部の方一帯に共通語が使われているのが解る。

これは水戸交通利便がかりのためとは考えられない、ゆだしに考えられるもう一つの原因は教育の普及にあるのではないかと聞いている。小学校の一年生位で国語、算数、理科等で教えられる共通語である「ナヨーン」というのをどの国分達の生活に飽け込ませるといふことがわだし達に二書生には多いものではあるまいか。

それどころナヨーンという言葉が田舎の習慣になつたと考えられるのであ「ナヨーン」を使つていふところへ共通語的の「ナヨーンナヨ」が侵入して来た連聲がらみると今後は共通語形がより一層の力に進展していき、戦後には偶然な長化が来たり限り田舎部全体がこのやうに語られることと聞かれる。

伊 興 郡 方 言 地 図

調査項目番号 29 共通語形 さたまし

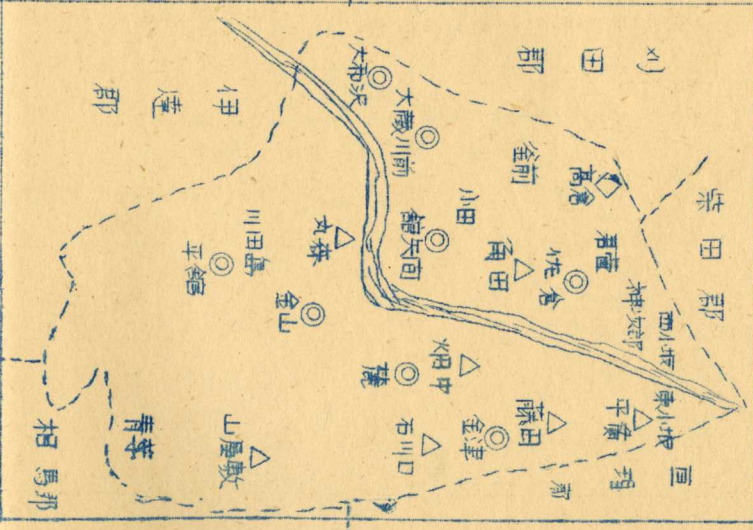
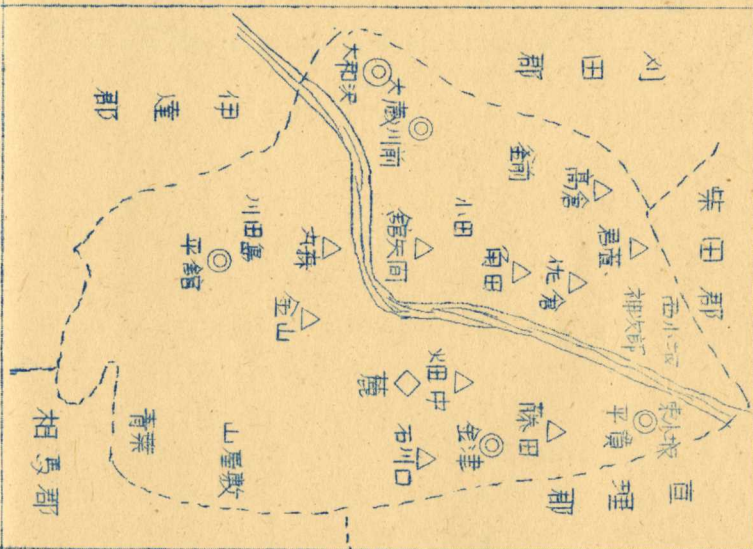
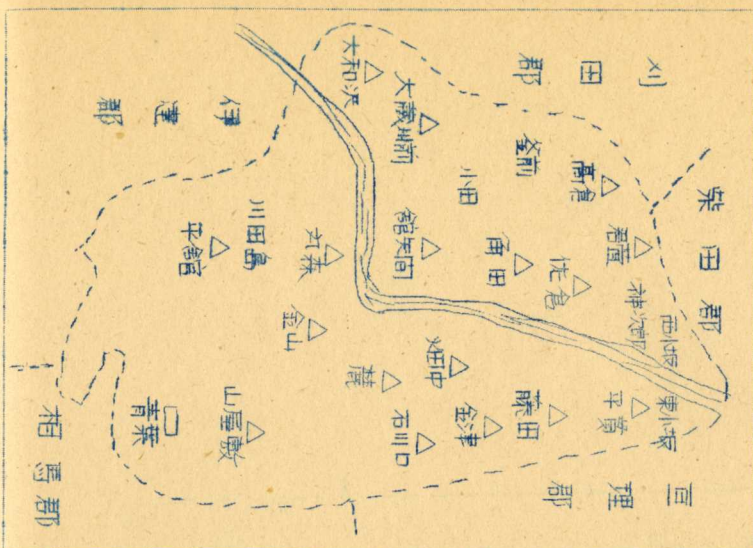
凡例

- △カマキリ・カマナリ
- ◇カマカサ
- ◎イボムシ
- イボトリムシ

10才台

30才台

50才台



五十才前に「イホムミ」と「カマキリ」は五合五合に棲み、三十才代になると、老齢形「イホムミ」は次水に消えて光の「カマキリ」が盛入して来た。十才代には舊葉が「イボトリムミ」と言うだけ以後の世方は全部「カマキリ」と言うようになった。

世図でその進路をたどつて歸ると「イホムミ」という語も阿武隈川沿に「カマキリ」と改つてきており、かも平野部から山ぞうに入つてゐる事が分かる。こゝで寒外町の發達してゐる館田・丸森方面に御殿に米ムシぞいの人達が「カマキリ」という共通語を覚えて歸つて行き、これが館田となつたのだらうと私は思ひます。

「イホムミ」について、

私は小さい頃「カマキリ」を捕えて茶之私達の手や足に出ている「イボ」をカマキリの前の方についてゐるハサミで切らせるとしきした、もちろゝあんかはたみで切れませんが、ハエに頃々ぐんぐんを筆として遊んだ事を思い出し、この記憶が間違つていなければ舊葉で使つてゐる「イボトリムミ」はこの人な思から生まれて来たのだらう。

そして一服で壊つてした「イボムミ」の語源もここから生きたものではないだらうか、と私は思ひます。

三 A. 圓 指 け

伊 賀 郡 方 言 地 図

調査項目番号 31 共通語形 ジャガイモ

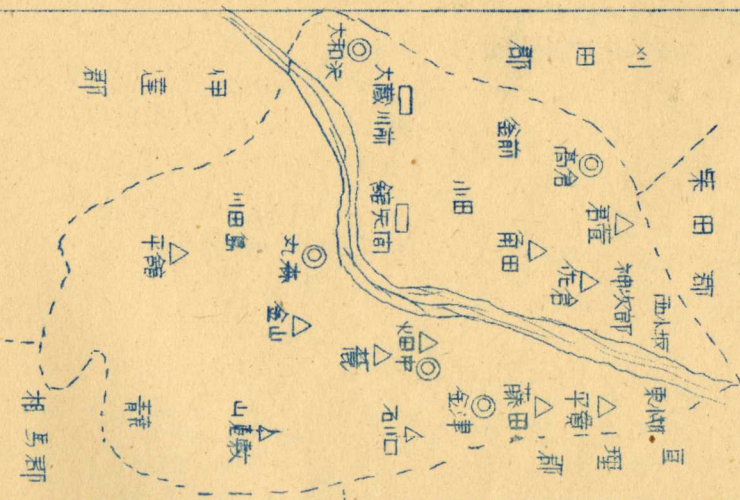
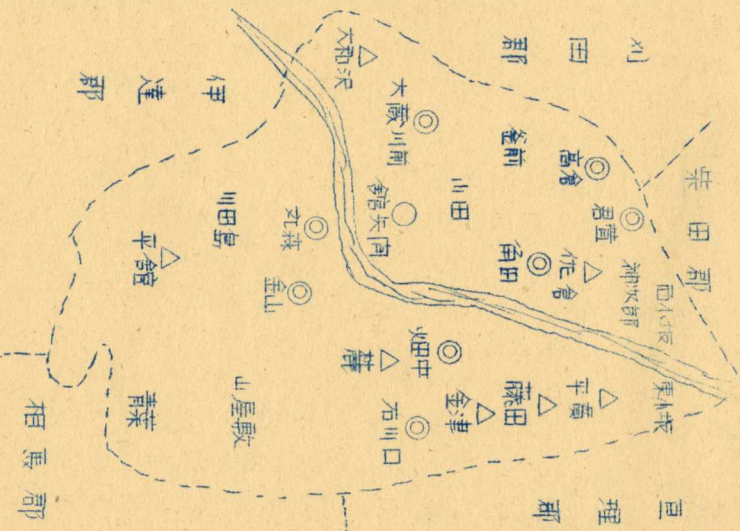
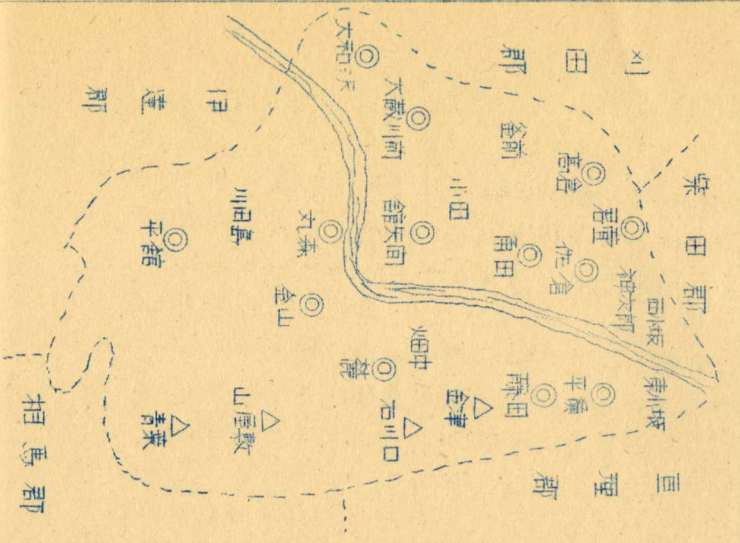
凡例

- バレーシイモ
- ◎ シヤガイモ
- △ サツイモ
- アカイモ

10 才 台

30 才 台

50 才 台



三つの分市図をみて一般的に云われることは、十代では「フカイ王」は全然みられないが三十代、五十代では「ナツイ王」ともまわれていると共に「フカイ王」とも併用されているが阿武隈川をさぐると「ナツイ王」が圧倒的に多い。しかしながら、坪代が経過するにつれ五十代より十代までの四十一年間に「フカイ王」「ナツイ王」の言葉は少なくなるとその区画「シヤガイ王」はその数も多く使用範圍も極めて大々なっているが、今日僅かに阿武隈川の東部側を金澤石川口山麓、青森と南北一直線上にその名残りとしてとめておけるにすぎない。

次に三十代の鏡裏面の一部「バリーニヨ」が使われているが方言形「フカイ王」「ナツイ王」の二語の中何れが古い言葉をきめる資料が無いのは残念なことだが、その使用する意味からみて、生活経験上「フカイ王」よりは「ナツイ王」が優勢な立場であるとみられる。かくして、以前使われていた語が優勢な「ナツイ王」にうつて狭められその使用度も減少していったと推定されるであらう。語同「ナツイ王」よりは「フカイ王」が以前使用されてきた言葉だと結論づけられるであらう。

最後にその変化せる時期と場所であるが一瞬して変化せる中心地は厩田外森以外には明瞭でないであらう。この場合厩田と外森間の差違がみられるべきか否かは不明だが、現段階においては同一のものであると判断して差支えないものと考えられよう。しかしながら同一のものであるとしても世の地域へ影響及ぼす厩田・外森を区別無しに一つの産源地と考えてもいかぬことは未だ研究不足だが、今回各代の教化状態と区別した方が適切であるように思われる。一路に川が同にあれば別に影響をばはもものであることさらに考へると五十代から三十代にかけて特に目立つ。畑中・畑三口、金山の共通語形は厩田より外森からの影響が大きいであつたやうである。むしろ厩田の共通語形はその同は、高橋、西倉への影響が強いであつたといふべきであらう。

しかし、次の三十代より十代までの二十年間には外森より厩田に南下したことはうなづけられることだが厩田の方では假に佐倉、平藤、藤田に北上すると共に川向へにもとの進む方向が故にこゝに推定されよう。

共通語形「かくれん語」は五十代では全く聞かれない、三十代でセー
 ン（鑑床固）十代では「かくれん語」と多くなつて約半數に使われている。そして
 「かくれかんじ」「かくれべい」「かくれかんじ」「かくれかんじ」「かくれかんじ」
 シヤカン」などは五十代から三十代への二十坪間に匣田、丸森で中込に
 匣田地方では徐々に減少している。そして共通語形「かくれん語」は三
 十代から十代にかけて匣田丸森で中込として前武隈川沿岸一帯の平野部
 に残かり使われるようになつた。北部及び南部の山間部では、この年
 代を境として、また共通語形「かくれん語」は使われていない。しかしこ
 れから数年、あるいは十数年後には山間部にも共通語形「かくれん語」が
 広がられ、方言形は全地域にみられなくなるであらう。

一 年 半 尺 腕 子

共通語形 54 番号 調査項目 調査項目

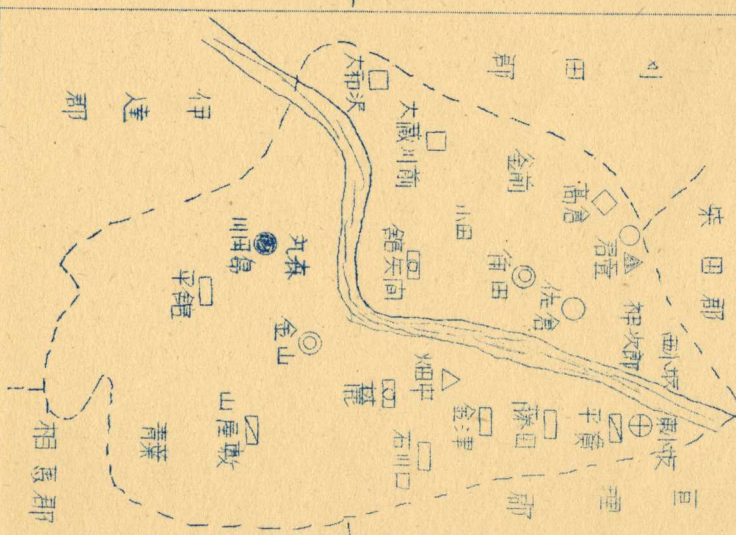
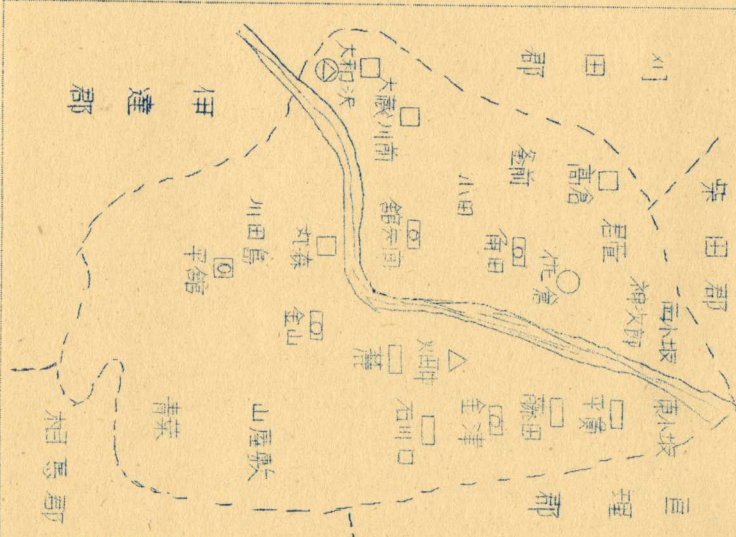
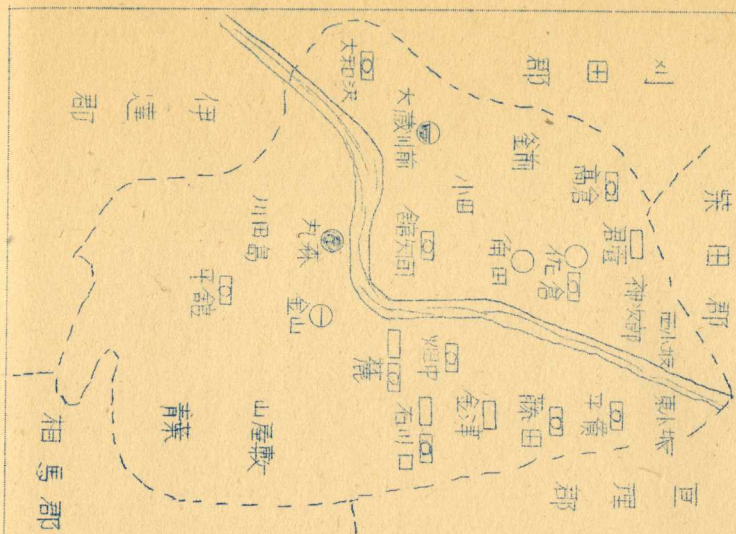
10 4

30 7 10

50 7 10

四例

- | | | | |
|---|------|------|---------------|
| ㊦ | まきこ | まきこ | あもちやに。あもちやごうこ |
| □ | あまご | あまご | ごんごもり |
| ◎ | ちかま | ちかま | あちるめつに。あちるめつに |
| △ | あつちか | あつちか | あちしだす |
| ○ | あちか | あちか | まごうこ |
| ① | あちか | あちか | ごんごもり |
| ● | あちか | あちか | あちりく |



この調査項目全般で一瞬すると使項目に比べてお言葉が世風俗に馴なり
その数もこれ又多し。特に十才代に使用した語はそのまゝに同じ形を保
つてくる五十代の分布図にみられる。一般的に昔話などは幼少の又
幼い頃に使用する語でその子供が生活する範囲も極く限られた狭い地域
であるためその地域より影響をうけたり、変化させることも少ない。
その一方である以上その子供の生活からみて緊密な関係がけり調査項目の
中であるためか、このこととがうたげられるのである。方言形の発音も世
方言とも関係にしろえだまがその殆んどを占めてゐる。(例へば「あ
か……」「ちやん……」「おもちゃ……」「あふるめ……」「ぶき……」「いんぐわ
り」等)。
三十代では組合せ組らの名残りが今だにみられるが、十才代にいたつて
は、「あか……」「ちやん……」「おもちゃ……」という具体的な普通名詞が使
用され、その大部分は共通語形がなめられてゐる。これのうてきたる
原因は数々考えられるが、教育程度の進歩に伴ない学校教育の然らしむ
ることがこの原因の大きいアクターである。この共通語形にしても
陣田・丸林一帯を中心に占まつてゐるとがうたげられる。

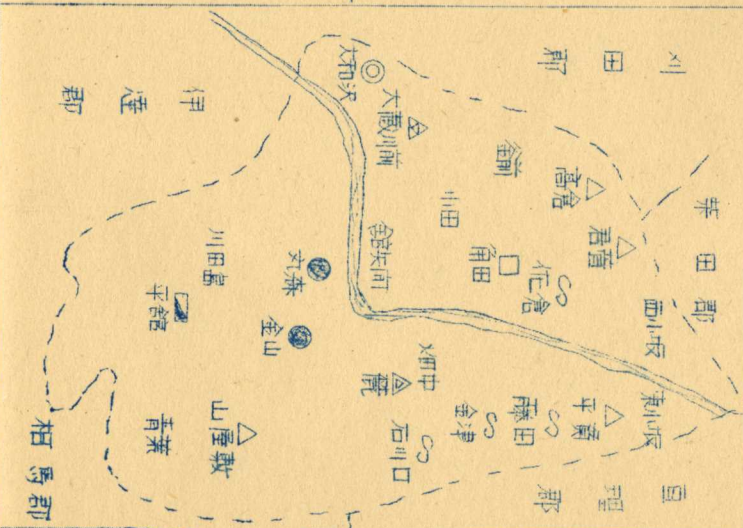
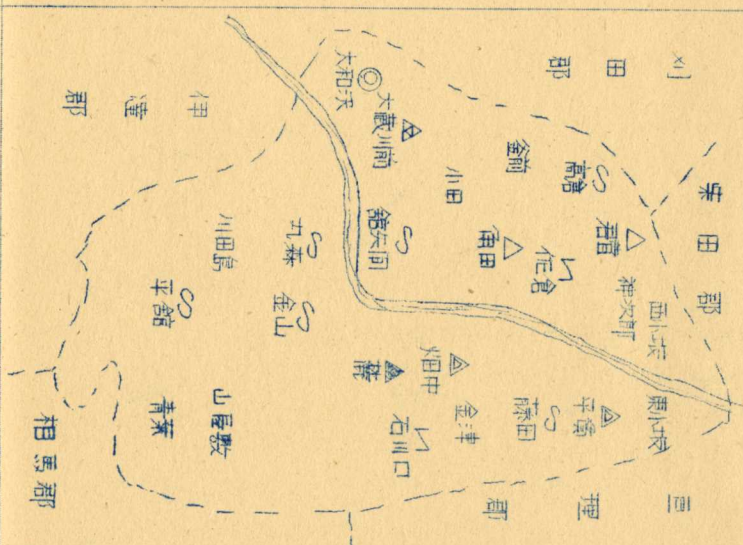
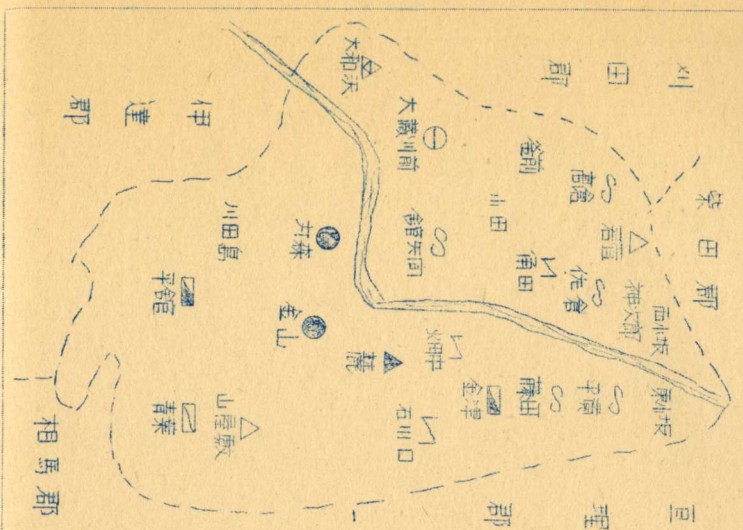
體面無私 53 形體國共

例) ① おにござこ。あぬござこ
 ② つかみろこ。つかみ(ぬ)
 ③ あにごと。あにごと。かぬごと
 ④ ぶごらこ。ふくらくら
 ⑤ ばけらく。ばけらこ
 ⑥ まんきたこ
 ⑦ はだじれんに。はだじつこ。はだじぬんこ

104

30 4 10

五〇七



この調査範圍に於ても幼児畫田繪の一つである關係、生活経験の範圍を
 せまぐ世城との往來もないので、世城邊に、その方言形が驟たり、その
 數も極めて多い。それらの方言形の区違もたゞ色を主とするばかりで、
 音のこもつたものが特にめだつ。例えは「つかみ」「おけくら」「ふっく
 ら」「おっけ」「おじやっ」「おっかけ…」「おんどりの」「はだし…」「誰
 まで、三十、十才代の散り方とみると、幾分、田田・丸森又その川河部
 の正位では共通語形又はそれに近い語形となつてゐる。しかしそれが表
 化したより他の地域へ影響を及ぼしてゐるとは断定しがたい。むしろ、四
 十坪といふ坪田が經ても昔の方言形も殆んどそのまゝ残してゐるとみて
 考へてゐる。

鈴木

伊 興 郡 の 地 図

縮小原図番号 55 共通語形 ビーだき

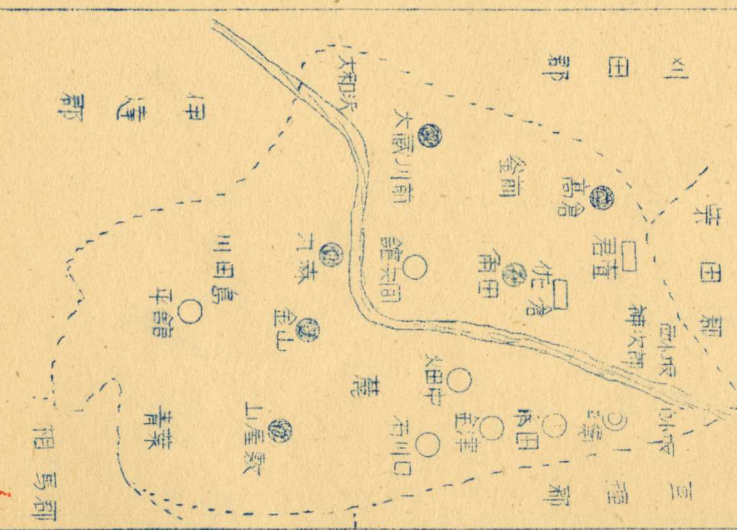
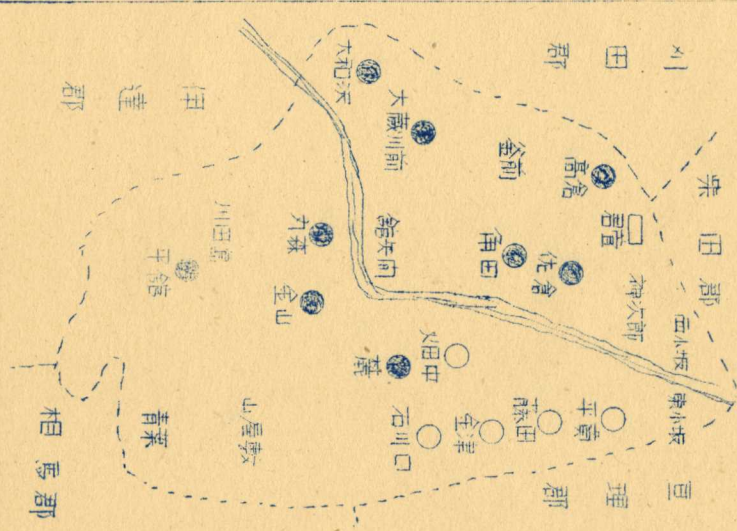
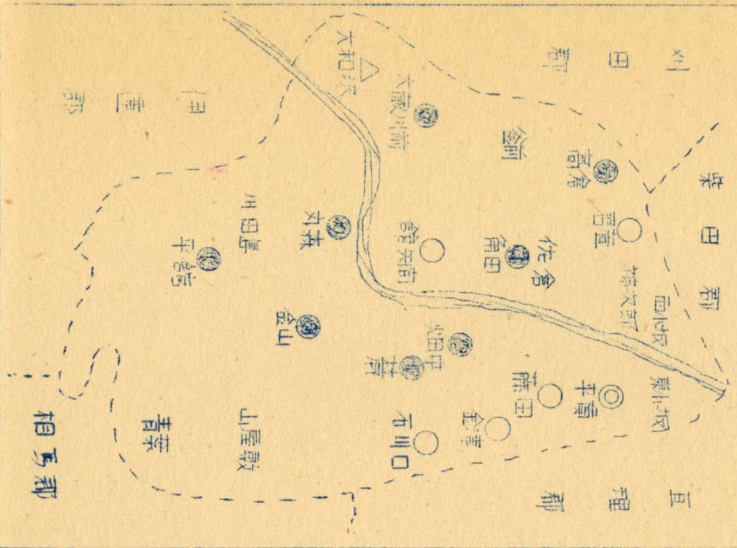
凡例

- だきだま
- べーがら
- △ きたるき
- だすこと
- ◇ ーんき
- ◎ びだき

10 才 台

30 才 台

50 才 台





種本

4055

びーだわ

全帳記に於て、丹波の三河内として乗船は「がうすだま」「がうしだま」とし、又、兵庫縣形は五十七代より三十七代にかけて、旧又は新船へ区が三十七代より三十七代にかけて、又船形が後を遺つて進んで、其の如くは船と申す。

船中の方の船中では「だまじつ」「あのだま(あざむ)」等、子孫のしに田船が「がうすだま」に所が「く」。又大和派では「がうすだま」と。

録 本

伊 興 郡 方 言 地 図

調査項目番号 56 共通語形 おはじき

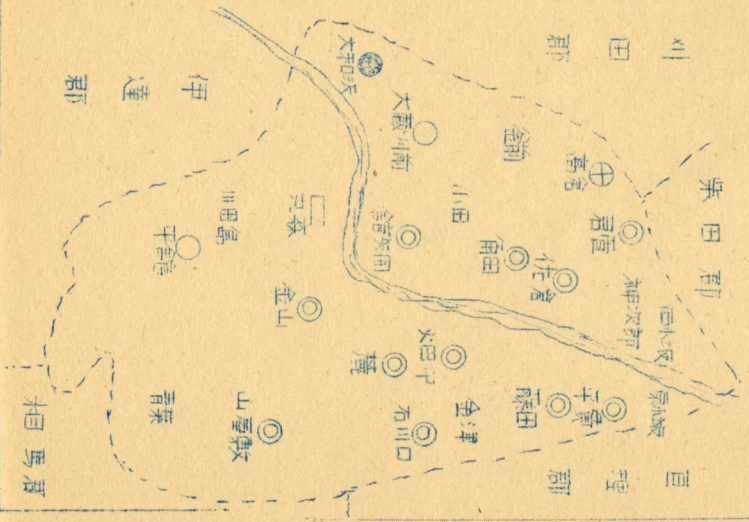
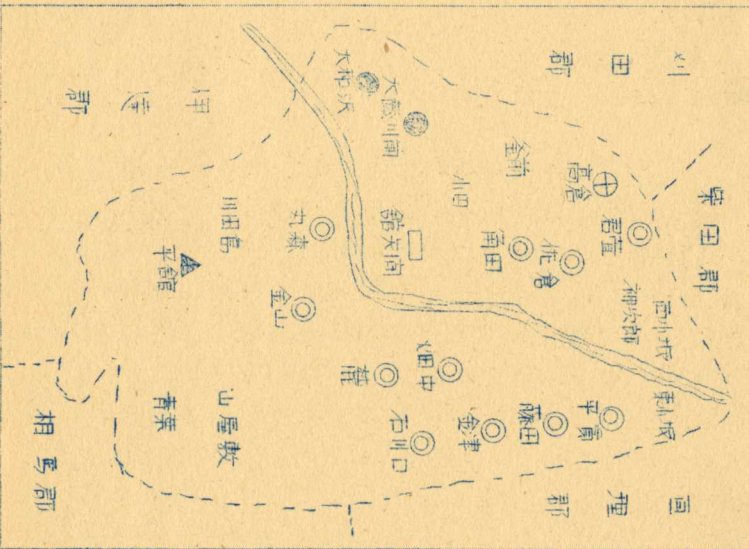
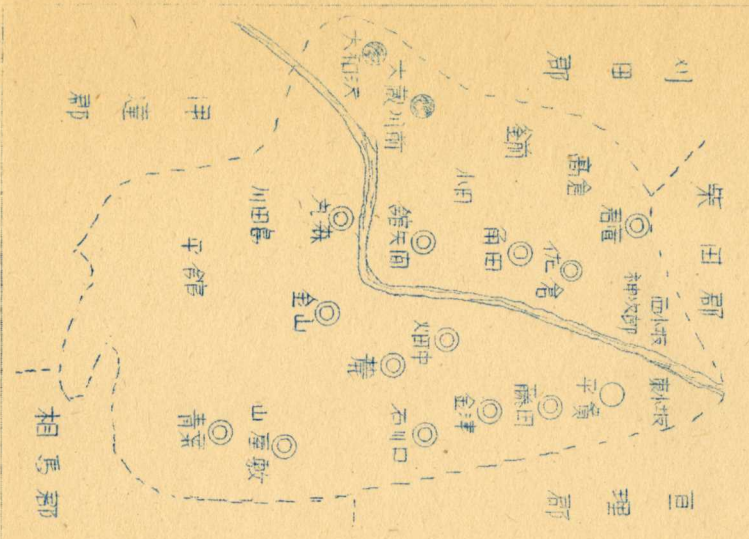
凡例

- おあつぎしせい
- おはさん
- おはこ
- △ おはこ
- ▲ おはこ

10 才 台

30 才 台

50 才 台



尾田愈也、より平野都では五十一代・三十代・十代ともに「あはじき」
 の大張での「あはじき」といひ、ほろは「びんどろ」といひてゐる。丸
 森では五十一代の人、つまり菅の人が共通語形を使ひてゐて、三十代・十
 代の若い人が「あはじき」といひてゐるが、これは、調査された人が方言
 調査のための条件に合ひてゐたのであるといふことがとれる。一般語
 には五十一代の人も「あはじき」といひてゐるのだからと断る。又館奥間で
 の三十代の共通語形使用も丸森と同じやうに考へられる。
 調査の五十一・三十代では「あはじき」といひてゐるが十代では「あはじ
 き」といひ、どちらを正しいか以てゐるか「あはじき」といふのは起
 かつてゐる。きだのではなく、これは「あはじき」が自然に「あはじき」と
 変化したのではないかと疑われる。

一 母 代 様 品 々

伊 興 郡 方 言 地 図

調査項目番号 57 共通語形 お手玉

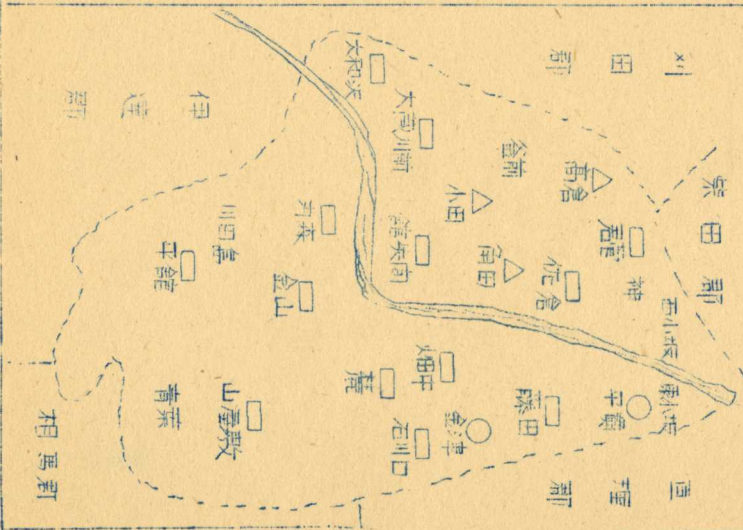
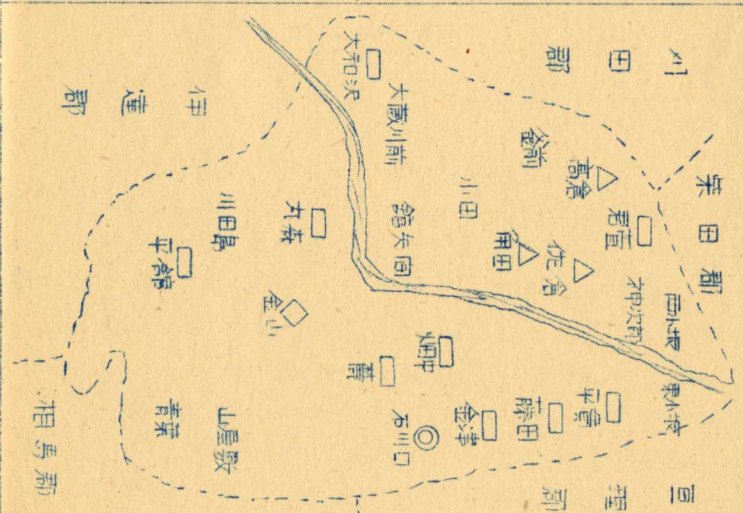
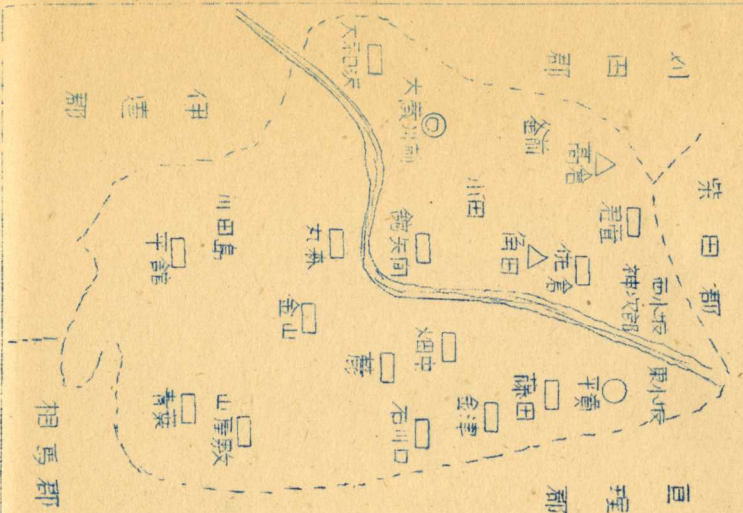
凡 例

- ナヤク・ツナク・クアク
- △ サ(ツ)ク・ジヤ(ツ)ク
- スナダマ
- ◎ オニダマ
- ◇ オタマジヤクシ

10 オ 合

30 オ 合

50 オ 合



歴史的に全体を通じて考へて見ると、五十代の平賀又金澤では「オナタマ」と言われているが、これは體、マヌキがわつたので、おでこを入れて作つたがらだと考へられる。そのオナタマ入れたお手玉とする時「オナタマ」は「オナタマ」の語がするので、自然と高倉などでは、オナタマとなり、それが平賀の國じから、佃田で言われて「オナタマ」に變化したのでと想われる。又川邊郷とする山岡郷では「オナタマ」「オナタマ」と言われ、平賀郷では「オナタマ」「オナタマ」などと言われている。又五十代三十代を比較すると佃田付地はあまり變化してないが川辺の平賀、金澤、石川口などは變化している。石川口では「お手玉」というやうに「ただけ共通語が使われているが、ただしてそのとあり部族の三十代の人達全部が使っているから、又じんな所から共通語になつたから、これだけでわかる」と知りがたい。又金山では「オナタマ」「オナタマ」と記されているが、これは謂意上の誤まりとしか考へられぬ。五十代も同じ様に佃田丸森を母として、あまり變化してない。

全体を通じて見ておもしろいのは、一姓しかないで、多岐にわたり、變化がなく、十代になつても共通語が入つていない。二十代はせだろか、交際範圍の広い大人の使う物であるから、だだちに變化するであらうが、お手玉は子供の使物であるから、子供は交際範圍が狭いので變化しないといふところから、共通語がなかなか入つて来ぬものだと想われる。

十代で一つだけ大蔵川節が共通語になつていて、進回されるが、この部族の語彙は「オナタマ」と言つてゐるとするならば、何時か後に共通語語も込んだんふえてくるであらう。

凡例

□ たこ
 × たご

△ てんげだ・てんがだ

○ たこてんげだ

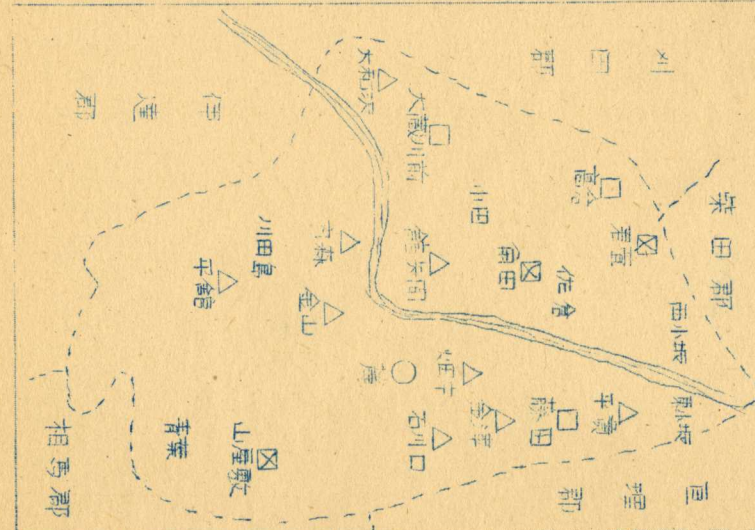
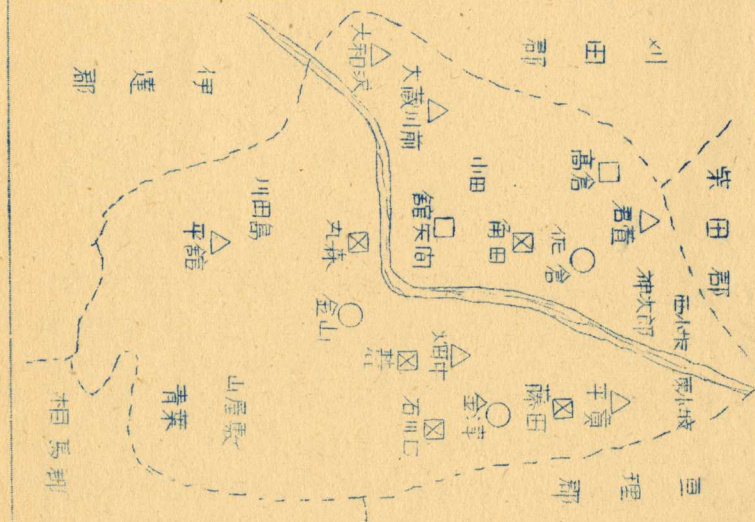
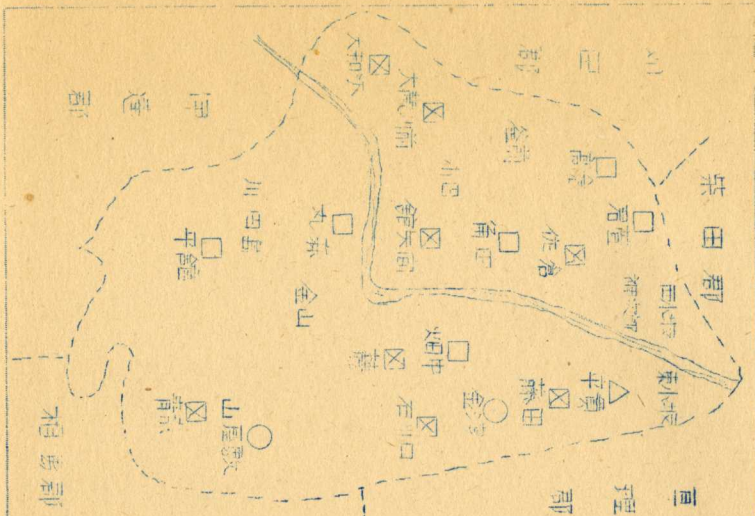
伊 興 郡 方 言 地 図

調査項目番号 58 共通語形 たこ

10 才 台

30 才 台

50 才 台



上田郡の言葉が平地の言葉の影響をうけて減少してゆく現象がこの頃
 国の全邦にも本にうるとするなうは、五十代の、本邦図にもリズリ以前は
 共通語形又はそれに近い語が「た」「だ」「た」が平地一帯よりその国
 の山間部にかけて語られていたものであつた。それが、何かの動機で方言
 形「てんばた」「てんかだ」又は二重用語として「だつてんばた」が用いら
 れるようになった。しかし二十代に經過するまで固く固まつていた
 うだが、その間に又新語として以前使用していた共通語形が現われ、十代
 にはいよいよ阿武隈川の東部を残して伊豆世帯一帯にのみこころ。

カ、
もすび

前項の分布図及びそれの解説をみれば、それの概要を理解できるとしても、各々の因連、その傾向、又、言語上として共通語と方言との関係、ひいてはそれらの地理的・文化的・地域社会的意義を把握するには困難を感ずるところであろう。従つて、当友の會員でもつて、話し合つたものを一応まとめ、それらの理解するため橋渡としてまとめてみる。

「文化の発生地は古より河川のあるところ」とは、よく耳にし、誰しも否定しえないところである。古来交通機關、通信等の未発達な時代は、地域との交流は殆んどなく、孤立封鎖の状態であつた。そのため、地域文化との比較もできないところから、飛躍的な進歩も望めなかつたろうし、そこで水上運搬、水上交通によつて細々ながら果してゐたにすぎなかつたであらう。当地域においても、言葉の発生又音韻的地域的変化、その増減という言語的立場より見て、一部の例外はあるとしても、伊興地方を南北に縦断している阿武隈川の存在は決して無視できないだろうという推測に出発し、実証することゝできた。特に大正十五年発行の伊興郡教育会編の伊興郡誌によつても肯定されることである。この郡の中央部は古来河水の汎溢により、田圃の山村を除く外は濕潤の地で、各所に沼湖あり、江水を湛えて居たので、石川氏以前の本郡交通の要路は難路であり、不便極まるものであつた。初代石川氏時代に道路政策が確立して始めて、南田より槻木へ白石へ中村へ直理へ筆雨より伊達郡へと交通が南けた。その多くは水路を利用して、大阿武隈川の上下する船舶による運輸であつた」と交通の容易ならざること指摘、その代償利用として阿武隈川をあげ、更に次の伝説民謡を讀むことができた。

あれ流れは何処の舟　あれは南田の土産船　南田の土産に何に貰つた　一分符　二分目の雪太　三分酒の帯もうつた　帯に短かし襷に長い　天旗入幡鐘の恩　鐘を叩いて長看と

ならば　南鍛冶町みる長看

と南田の土産は土産船にうつて阿武隈川を下つて荒浜に出、奥山堀を棹して仙石に歸つた。当時の水利大阿武隈川の盛況と南田三万石の城下の殷賑はこの郷土に残る一篇の俗民謡手まり歌を出して想像される。

川底の浅くならぬ、勢なくとも明治二十年頃川蒸汽船で荒浜掘釜からこの町へ上下し、鉄道が布設されるまで、朝夕へに大小の帆前伝馬船の幾十艘が往來してゐたことは文化的にみて、悪條件の当地方には水利の天恵そのものであつた。

以上歴史的にみても角田、丸森は当地方の地理的中心地であると共に文化の中心地でもあつた。かくて前項目の地方言の分布図及各の解説でもつて肯定できる如く確かに新語共通語もその下流より伝わり当地方の中地角田、丸森から種々変化、移動しその周辺にそれらの語形が伝わったことは事實であらう。だが下流より直接角田、丸森へ入ったものか、或はそれまでのある土地へ渡りそれが若干の变化をうけながら角田、丸森へ入つたものかは疑問だと云々ざるを得ない。とにかく角田、丸森及びその周辺より四方へ移つて行つたことは否定できない事實である。したがって西部の山向部、南部の福島との境をなす山向部、又東部の亘理郡との境をなす山向に以前使用された語形がその若干の变化をうけながらも今日にもその名残りをとどめてゐる。

かくて、言語はこの阿武隈川の恩恵をうけ更に角田、丸森の二地を中心として周囲へ広がつていつたことは事實だが、それが如何なる原因でどのような変化の過程を経て広がつたかは残念ながら究明できかねたが、どの方向へどの程度まで広がつて行つたかは凡そ次の如く結論づけられてゐる。尚年令的に使用する言葉が固まるのは十五、六才より二十才前後といわれているので、今日の五十才代又三十才代の人が十代で話されてゐた言葉を各々四十年又二十年経過しても変えずに今日も話してゐるという仮設に基いてゐることを前もつておことわりしておかなければならない。

(一) 時代の差はあるとしても共通語形が当伊貝地域全般又はその大半に使われてゐた。しかしながら当地方を南北に流れてゐる阿武隈川づたいにそれとは異なつた方言形とみられる語が一応角田、丸森一帯に入り、こゝを中心として周囲へ広まり、以前使用してゐた言葉を喪へたものの以前の共通語形勢力におされ、現在の十代の子供には全くその姿を消してゐるものがみられる。例えば「¹⁶⁶ひじ」「¹⁶²²ごげくさい」「¹⁶⁶おはじま」等

(二) 又反対の現象としてみられるものとして「¹⁶²³うし」において、川沿いに共通語形が五十才代より三十才代にかけて角田、丸森一帯に入つたと思われれるが、その周囲の方言形の勢力におされ消滅をおこしてゐる。

(三) 更にこのようにして入つた共通語形が消滅の傾向にあるのではなく、逆にその方向や移動の範囲は一定してゐないが以前の方言形を变化させるか、又移動させてゐるかしてゐるものがある。例えば「¹⁶¹²あご」は佐倉附近より南の方へ「¹⁶²⁸ちよう」は北面部や、南東部の二つの方向へ「¹⁶²⁹かまきり」は「¹⁶¹²かくれんぼ」はその周囲へ各々影響を及ぼしてゐる。

(四) 又「蛙」のように共通語形が丸森、角田を中心に発生してもその周囲の影響がみられるわけではなく、四十年前以前の分布をそのまゝ十代の子らにも殆んど残えずに残しているものもある。

(五) 又時代的に影響や移動する時期のちがうものもある。例えば「うらがえし」では五十年代より二十年代までの二十一年間に丸森に入つた語が東部へ移動、その間角田周辺の同じ共通語が北上したようである。これが三十才代より十才代の二十一年間に着しくのび、更に方向を東へ移し、移動したようである。それらが、南より北より角田の川向い全津、藤尾附近で合流しているように思われる。従つて川向いの地帯への角田からの直接の影響は多少はあつたとしても殆んど感じられない位のものである。マ同様なことが「じやがいも」にもみられる。

(六) 角田に方言形が入り以前話されていた共通語形を山間部へおしのけ方言形が一定の範囲まで(特に平野部一帯に)広まつた頃に又その内部で以前話されていた共通語形が新語として誕生し、その周囲の方言形を凌駕しようとする波紋状的な移り方をしているものもある。

(七) 以上のように変化、移動しやすい語に対して「ひきがえる」⁴⁶²⁵「おにごっこ」⁴⁶⁵⁴「ままごと」⁴⁶⁵⁷「あす玉」⁴⁶⁵⁷のように四十年前の言葉を変化も移動も殆んどなく、他地域からの多少の影響はあるとしてもほぼ音の姿をそのまゝ残しているものもある。

特にこれらは幼児童の使用する語彙に、このような現象がみられる。しかし、このような語は地域毎に云い方は全く異なり、その種類の数も極めて多いことに気がつく。以上当地域として共通語に對する方言に關するものをみてきたが、尚この際一般的傾向として次の如き言語現象が感じとられる。

(一) 言葉は文化の高いところから低い方へ流れゆく。

(二) 文化の高いところはその語を何時までも使用しているわけではなく他地域の一一般的に文化の低いところへ移動させながらも次から次へと新しい語を生み出してゐる。

(三) その移動は例外的なキヤンスがあつて急激化、又すつかり置換される場合は別として一般的にみて長い年月(凡そ最低二十年)を要し波動的に之がつまゆく。

(四) 同じ内容の意味をもつ語は一つとは限らず、多いのになると当地方の調査にすれば十種余りになるものもある。それだけの原因、條件は完全に究明されてはいないが、その輕重の差が認められ

十 評語へ加藤正信先生へ

用法上優勢と劣勢な語とがある。その劣勢な語はその地域内で消滅か或は辺界な文化度の低い地方へ移動するとして、新語として優勢な語が出現、その周辺へ広まつてゆく。

(木) 優勢な語は共通語だけとは限らず、方言が優勢で共通語を消滅させることもある。

(一) 同一内容の幾つかの言葉は今用使用されていなくても以前使用されていた言葉の上に新語が現われることが次々起り、地層の如く堆積されている。

(ト) 交通不便という地理的條件で往來の少ない山間部には今日に至つても何らの変化も受けず昔のままの形をそのまま保存している。

(チ) 交通不便でないところでも他地域との交渉を必要としない語特に幼児童の使用する語は昔の言葉とそのまゝ保存し、その数も極めて多い。

以上当調査研究での結論めいたものを纏めてみたもののこれらは伊具郡内だけを対象したるものであつて、隣接地域との関連を無視できない状況から郡外の実態を調べるならば、郡内の実態は明瞭且正確なると共に、以上の内容も受つてくるだろうことは否定できないものであることを最後にことわつておきたい。

方言は日常目に触れ、口にしていてるので、その変つた言葉などは私たちの興味をひきやすいのですが、さて、實際にそれを科学的に研究するとなるとなかなかむずかしいものです。ある地方に住んでいる篤志家がその地方の方言の単語を集めて、そのアイウエオ順の辞引をつくるということも大変な仕事で、しかもまた貴重な作品です。しかし、それは英和辞典などとは異つて、辞書としての利用価値という点では全く話しになりませんし、また学問的かという点と必ずしもそうではなく、ただ古い方言を拾つて集めて並べただけで満足しているということが多かつたようです。

今回、角田女子高郵便友の会の皆さんのおやりになつたことは、老人だけの言葉をという従来の方言研究とは異なり、自分達の生活にすぐでつながる生きている方言の分布の実態を科学的、近代的な方法で綿密に調査研究された点で画期的なものと思います。このような研究はますます宮城県ではなされていき、皆さんがその始めと言えましょう。現在、国立国語研究所で日本言語地図の作成のため、全国の方言の分布を最密な方法で調査していますが、その地味は各郡二、三の地味ぐらい

伊具郡では金山の一地矣だけして、どうして皆さんのように細かい地史の差を明らかにし得ないでしょう。

近代的な大規模な調査では個人の力に限界があるので、どうしても組織の力による共同調査ということになりす。その際は単に学問的な能力ということよりも、チームワーク、人の和ということが大きな問題になることと思います。鈴木先生の御指導のもとに、個人の功名を捨てて歯車の一つになつて調査の準備のある部分を責任をもつて分担し、また炎天の山野を女性の身で駆けめくり、最後に部厚の資料を整理して言語地図を書き、それについての自分達の考えなり意見なりをまとめたことは心から敬服いたしてあります。これが高校生の仕事かと目を見はる実に立派な良心的なもので、専向の学界でも太い利用される価値のあるものと信じます。私も実はこのような調査をしたいものだとかねがね机上で空想していたところなのでした。その実行可能であるとの証據を皆さんから示していただき、非常に勇気づけられたようなわけです。今後、まだ、郡内の調査地奥を細かくして行くとか、郡外とも比較して伊具郡の特徴を明らかにするとか、自分の進歩に従つて同じ資料でも解釈のしかたを改善して行くとかいうことも残されているかと思ひますので、皆さんの一層の御努力を祈つております。

今回これをまとめられたことは、友の会の皆さんが自分達の共同の仕事の輝かしい記念塔として卒業後にも思い出となつて自分をほめますだけでなく、地域社会の人々に方言についての自覺を促し言葉を大切にし御土を愛する心をこの土地に植えつけることになると思ひます。

二月二十二日

附記（雜感）

当研究の最大の困難處は伊具郡の最も身近かに感じている言葉とはいへ如何なる言葉つまり方言形を、如何なる立場より如何なる方法ですゝめてゆくかであつた。勿論、伊具郡の地理的、歴史的地域社会的にその実態の何ものかを知らず行ふのであるからこれ程危険極まることにはないであらうし、かゝるに本校校長、高梨先生、東北大学院文学研究科且本校講師宮川康雄先生の全面的な御協力により出發したこと、思い出すも心強いものであつたことは疑ひ得ない。

更に宮川先生の御協力により同科のこの方面を直接擔當してあられる加藤正信先生の直接、間接に

かゝわらず献身的に我々友の会員に御指導を最後まで賜つたことはこれまた感謝の一言の他は無いところである。

しかるに、かゝる座にして入なる研究課題に比べ言語学的にも、その他についても全くの未経験且未熟なものがこれを成し遂げたとしてもその結果は甚だ身のちがふと思いがするのには当然であらうが、精々綿密な而も着実な討究のもとに正確な調査方法によりこれを實施し、我々の果せる忍耐強さを以つて専心努力した次である。然しながら、これらの過程、方法、結果に於て不備にして不満な箇所の数多きことはやがめない事実であるが、かゝる其後に課せられた問題であることは、ことやつておきたい。特に心残りのする問題は郡外の周辺の地域の調査であつて、これを實施すればこそ郡内のことが明瞭に結果づけられたことであらうということである。

さて本校生徒諸子に対しては今迄生活の中に溶け社会生活上切つても取りはなせない言葉、特に方言を無意識に使つていたが、この調査研究により方言の生能を再認識し共通語標準語との差違より地方言の存在意義を知ると共に今後の我々が実社会を送るに当り科学的な眼をもつことに当調査の意義があるのである故。当調査を直接参加し或はこれを熟読することによりその一担を果せたとするなら、これに過ぐるものはないのである。果せるなら、どうか、当地方の研究したことを充分活用利用していただきたいと思ふ。

尚この調査には三十有余名の南田女子高郵便友の会の皆さんが精神誠意、思い出せば本校休法室で夕方遅くまで、日曜日返上して登校、夏の暑い炎天下、自転車で又は徒歩で何里もの道を歩き廻り被調査者を求めるために更に歩き続ける等数限りないものか思い出される。古人の言葉に「石の上にも三年」なんて言にすると一つの手を完成させるには三年は愚か十年二十年三十年もかかるものであらう。この覚悟をもつてすれば如何なる障礙をも乗り越えられるものである。しかしそこには血と汗を排わなければならないことは申すまでもないが、今後の一層の諸子の健闘を念じまします。

最後に当地域の実態の把握等に本校職員・氏家均事務長と、同職員渡辺房男先生の印刷等の御協力に感謝申し上げます。

22/77

4N-087
(N11)
Ka 28
宮 2A

国立国語研究所

3

8

7

466